

令和3年度

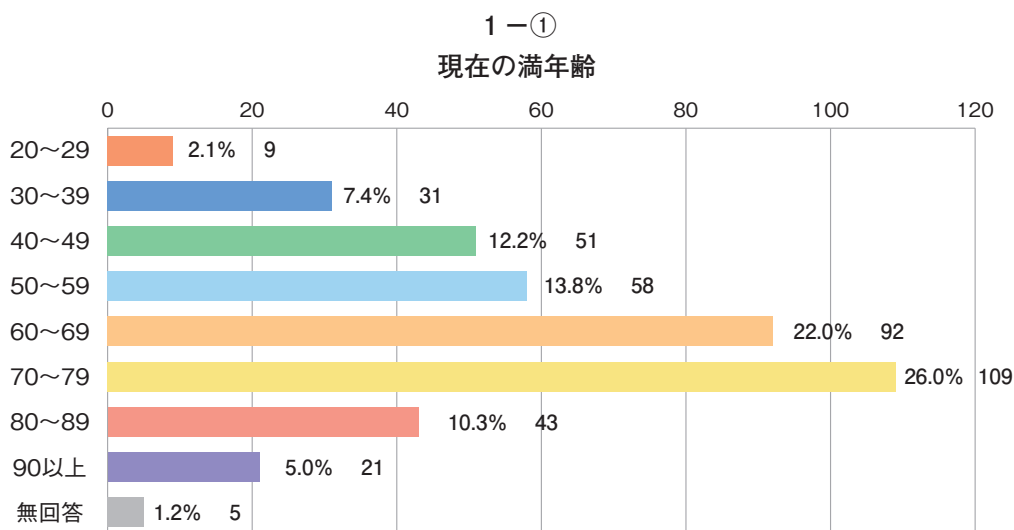
日蓮宗全女性教師 アンケート調査

凡例

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超える。
- 自由記述欄の回答は、プライバシー保護の観点から内容を損ねない範囲で加工を加えている箇所がある。

1 あなたの状況についてお尋ねします。

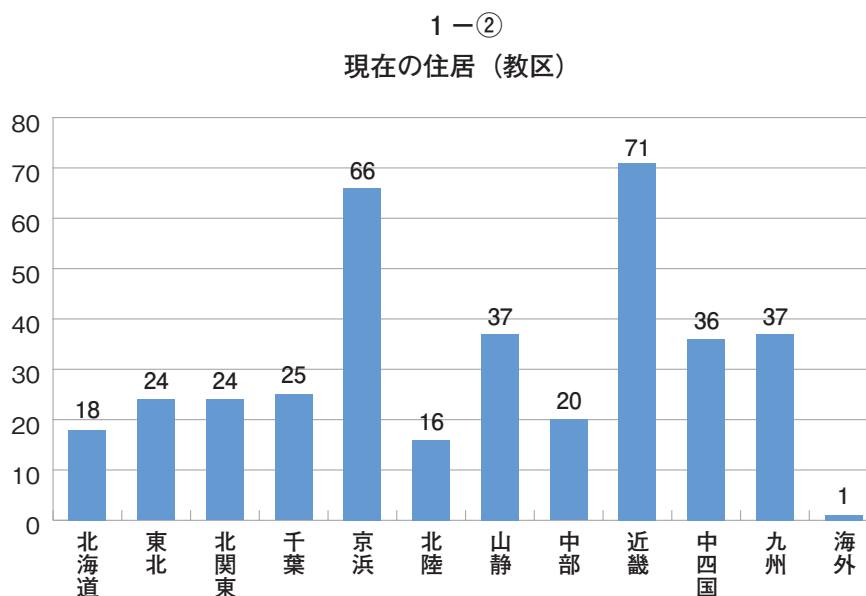
① 現在の満年齢



50・60・70代で全体の62%を占めている。

この傾向は前回（68.3%）と変わらず、令和2年度の宗勢調査における教師の年齢別構成の傾向とは若干異なっていることがわかる。宗勢調査では最も多いのが40歳代（20.2%）で、以下50歳代（18.3%）、60歳代（17.5%）70歳代（17.8%）、宗勢調査における50～70歳代の割合は全体の53.6%であるので、女性教師の方が少し高齢化している状況といえる。

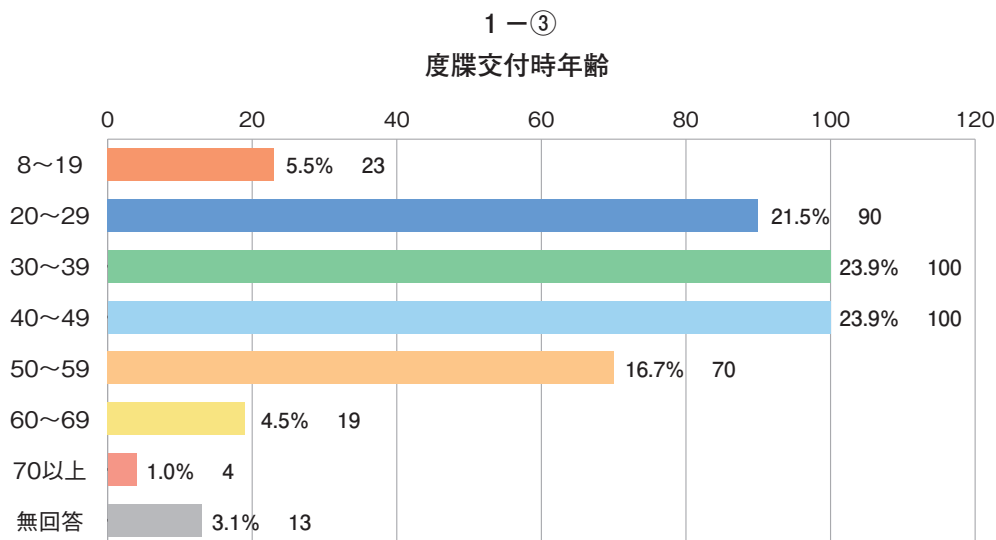
② 現在の住居（教区別）



本アンケート調査は、京浜教区、近畿教区の外、山静教区・中四国教区・九州教区の回答数が比較的多い。なお、都道府県別に見てみると大阪府、山梨県、福岡県、岡山県に在籍する女性教師が

比較的多いということがわかる。

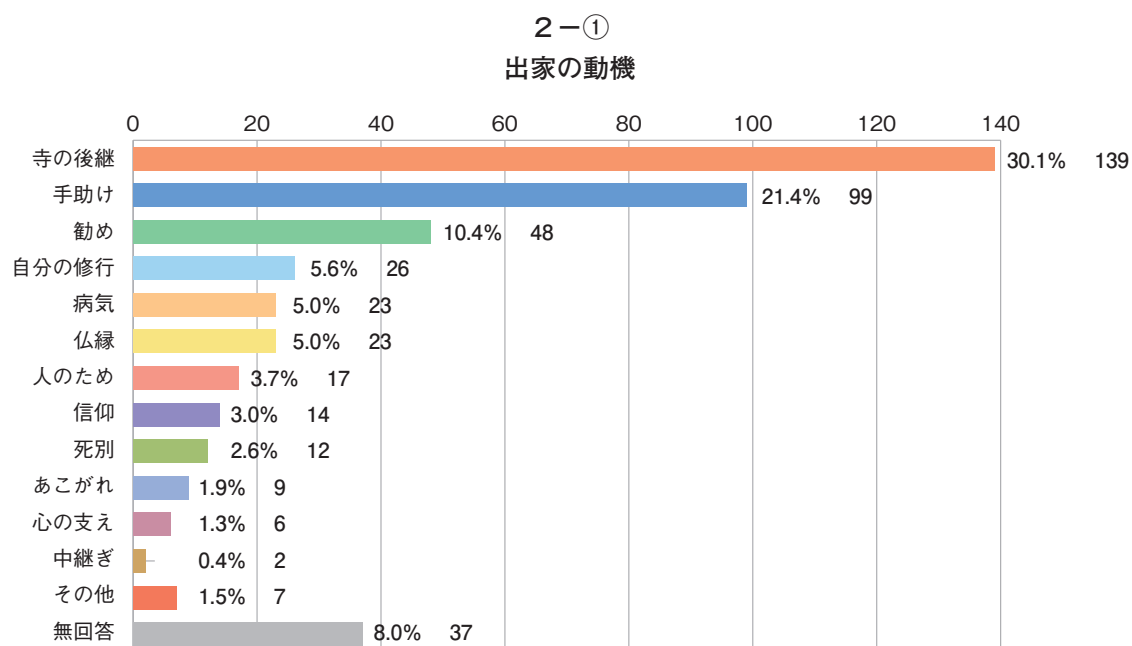
③ 度牒交付時の年齢



前回調査と比較すると、8～19歳（5.8%→5.5%）、20～29歳（13.2%→21.5%）、30～39歳（22.9%→23.9%）、40～59歳（41.3%→40.6%）、60歳以上（7.2%→5.5%）となっている。突出しているのが40～60歳までの中堅層であることは変わっていないが、20歳代の度牒交付数が増えたことが大きな変化である。これは次の質問の回答と大きく関係していると考えられる。

2 出家についてお尋ねします。

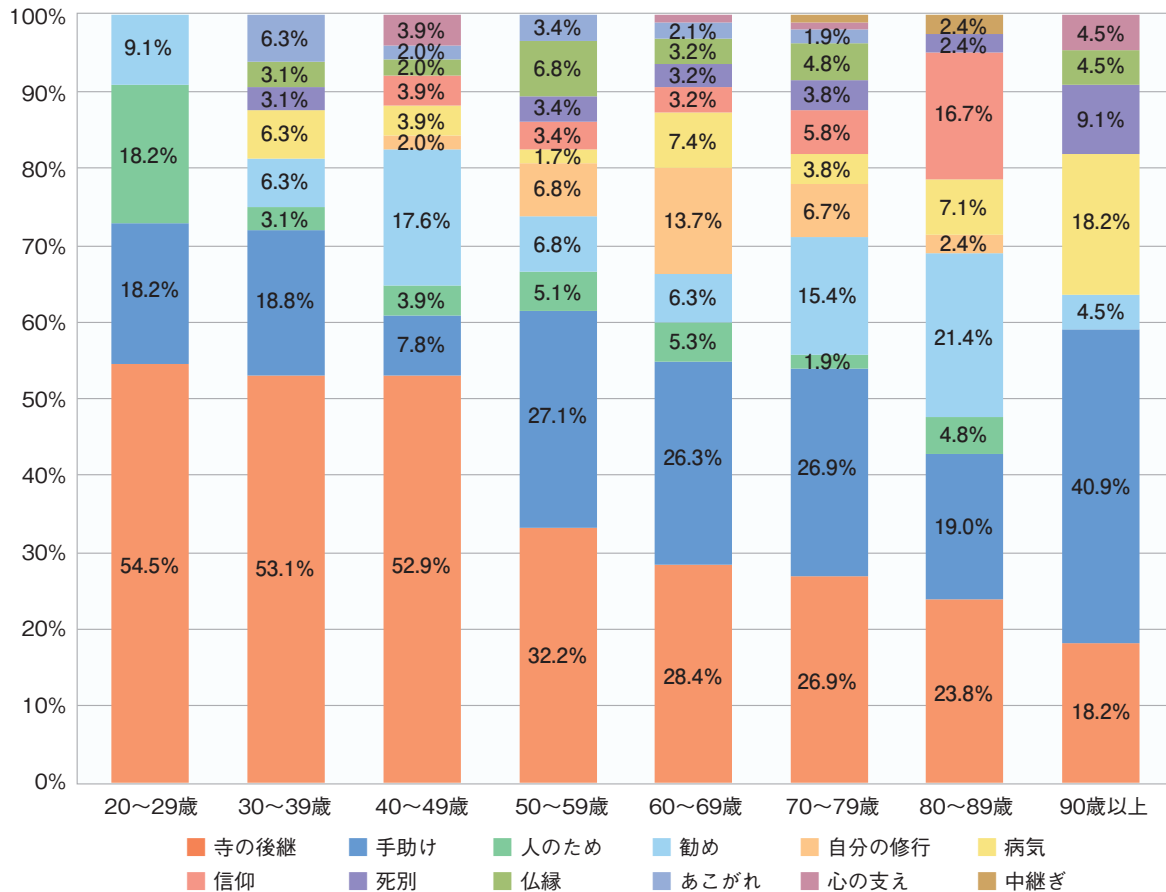
① 出家の動機は何ですか。



出家の動機について、今回最も多かった回答が「寺の後継」である。「手助け」とは「住職」である師匠、あるいは父や夫等を手助けするため、ということであり、前回最も多かった答えである(56.4%) が、この中には今回の項目にある「寺の後継」という意味も含まれていると考えられる。そこで今回の寺の後継(30.1%)と手助け(21.4%)の回答を合計すると51.5%で、前回調査から漸減ということになるが、「度牒交付時の年齢」回答における20歳代の増加を考慮すると、寺院に生まれて親の後継として出家得度・度牒に至る女性が増えているのではないだろうか。

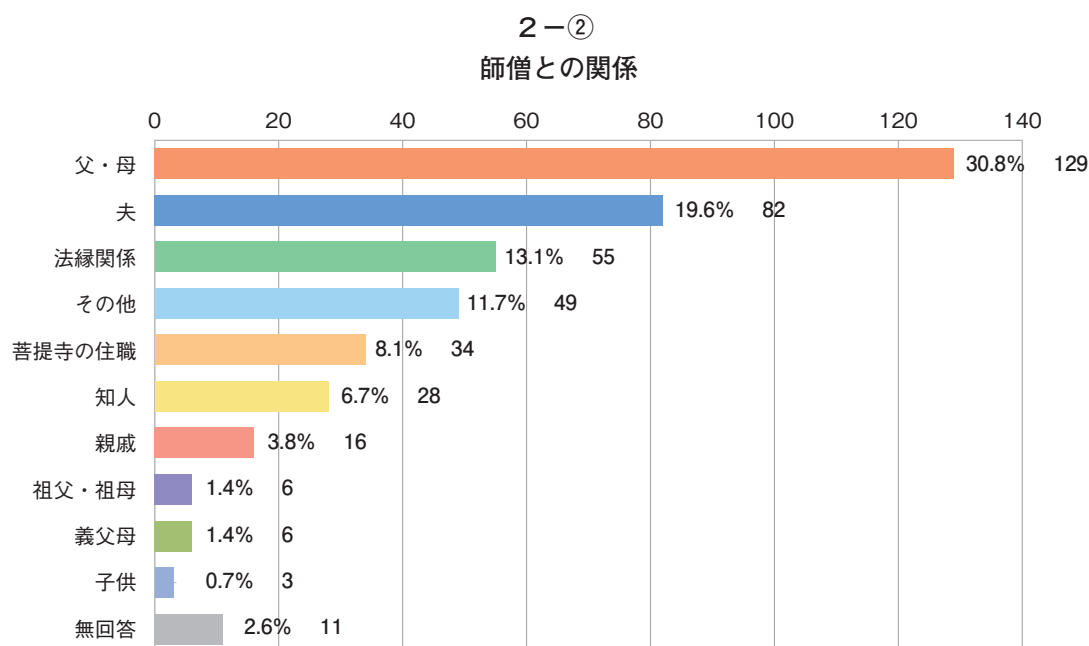
これは宗勢調査からも窺われることで、昭和51年度から令和2年度までの調査によれば、出身が「寺院」である教師は57.6%から73.1%まで増加している。当然在家出身の教師は40.8%から26.5%に減少しているが、これは20歳代の在家からの出家者が減少していることの表れであり、このことが女性教師の出家理由とも関係しているのは明らかである。この「出家の動機」と「現在の年齢」をクロス集計すると以下の結果となる。

現在の年齢×出家の動機



50歳代を分かれ目として、それより若年者は寺院の後継として、すなわち親子関係を有し、寺院で生まれ育った子弟が出家得度することが半数以上となっている。片や、50歳代より上の年代では、寺の後継も出家動機の一つであるが、その他、自分自身の人生に関連した様々な理由が存在する事が分かる。統計を取っていないので不明な点はあるが、在家からの出家得度者の年齢別構成と関係しているものと推測される。

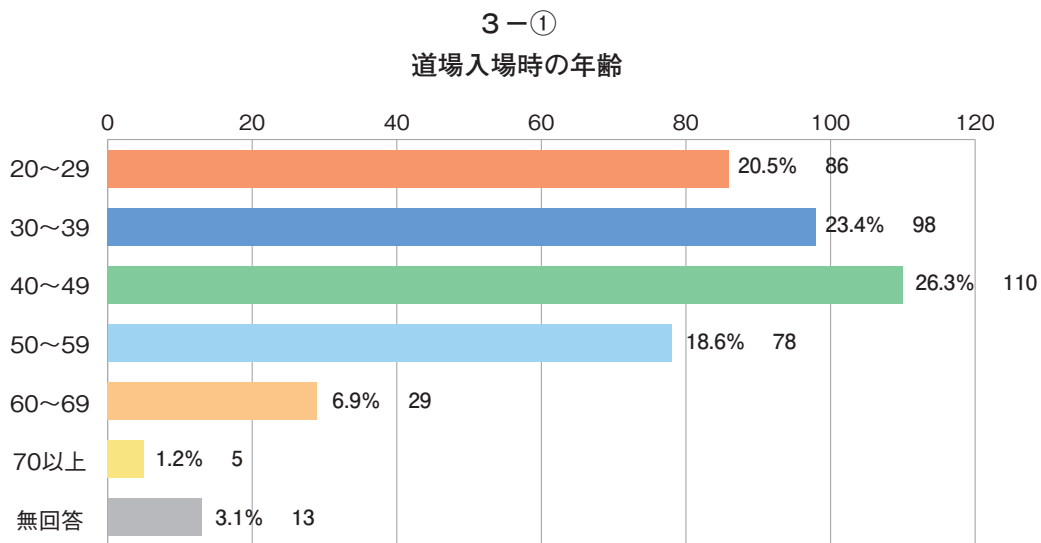
② 出家時のあなたの師僧との関係は何ですか。



前回と比較すると師僧が父母（17.4%→30.8%）、夫（19.0%→19.6%）、法縁関係（20.5%→13.1%）、菩提寺の住職（13.2%→8.1%）、知人（18.7%→6.7%）、親戚（4.7%→3.8%）となっている。「師僧が父母」という俗縁の割合が増えて、「法縁関係」「菩提寺の住職」「知人」の割合が減少している。自由回答の傾向は以下の通りである。曰く「信仰している先の住職」「師僧の信者であったから」「自然の形でお寺に行った事がきっかけ」「お寺の朝勤に参加、手伝い、出家を願い出る」「信仰のご縁」「尊敬と信頼の置ける方であるから」等、縁のあった寺院・僧侶に出家得度を願い出る形、また「両親の紹介」「知人の紹介」「菩提寺の住職よりの紹介」「身延の坊宿泊中に出会った尼僧の紹介」「尼衆宗学林で指導していただいた縁」等、紹介者の仲介によって師僧と出会って得度、その他にも「父母の師僧」「先代住職の知り合い」「夫の兄弟弟子」「親戚寺院の住職」「干与人」等々の答えがあった。

3 信行道場についてお尋ねします。

① 信行道場入場時の年齢

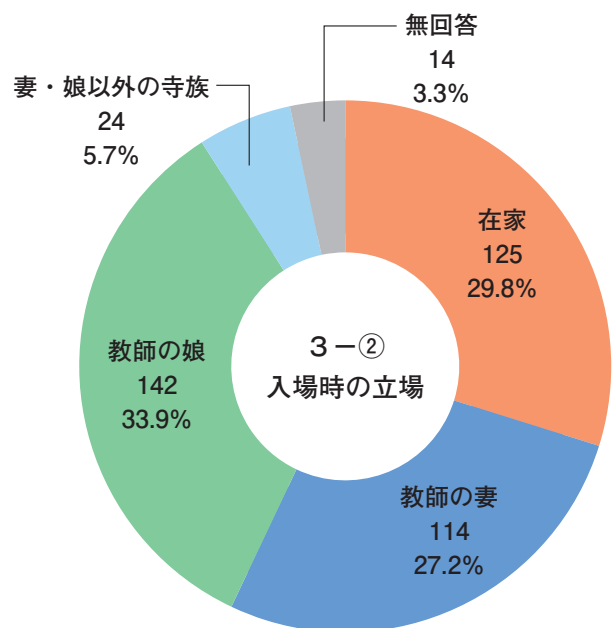


前回調査と比較すると、20歳代（14.5%→20.5%）、30歳代（20.3%→23.4%）、40歳代（27.0%→26.3%）、50歳代（25.5%→18.6%）、60歳代（8.8%→6.9%）と推移している。顕著な変化として、20歳代の道場入場者割合が高まっていることが挙げられる。

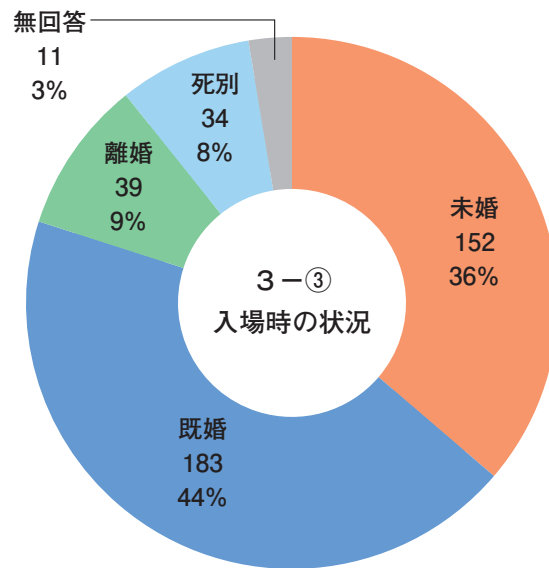
② 入場時の立場

前は、「在家者」、「教師の妻」、「寺族」として尋ねた質問であるが、今回は寺族を「教師の娘」と「妻・娘以外の寺族」に分割した。

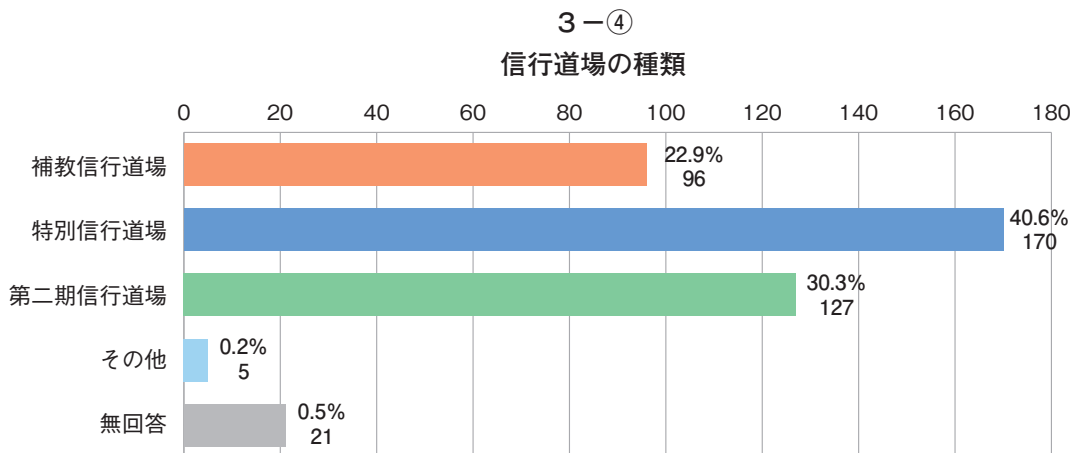
在家者（43.1%→29.8%）、教師の妻（22.9%→27.2%）、また前は寺族（30.1%）という項目であったが、今回の教師の娘（33.9%）と妻・娘以外の寺族（5.7%）を合わせると39.6%となる。「教師の妻」も合わせると全体の66.8%、前回の53.0%から増加し、ここでも在家者の出家が減少していることがわかる。「妻・娘以外の寺族」については「前住職の妻」「教師の母」「教師の姉妹」「養女」「出家しなかった夫に代わって」「寺の内弟子」等の回答があった。また年齢によっては、昭和48年以降、中山妙宗から日蓮宗に加入し、改めて信行道場に入場した方もいることが回答から判明した。



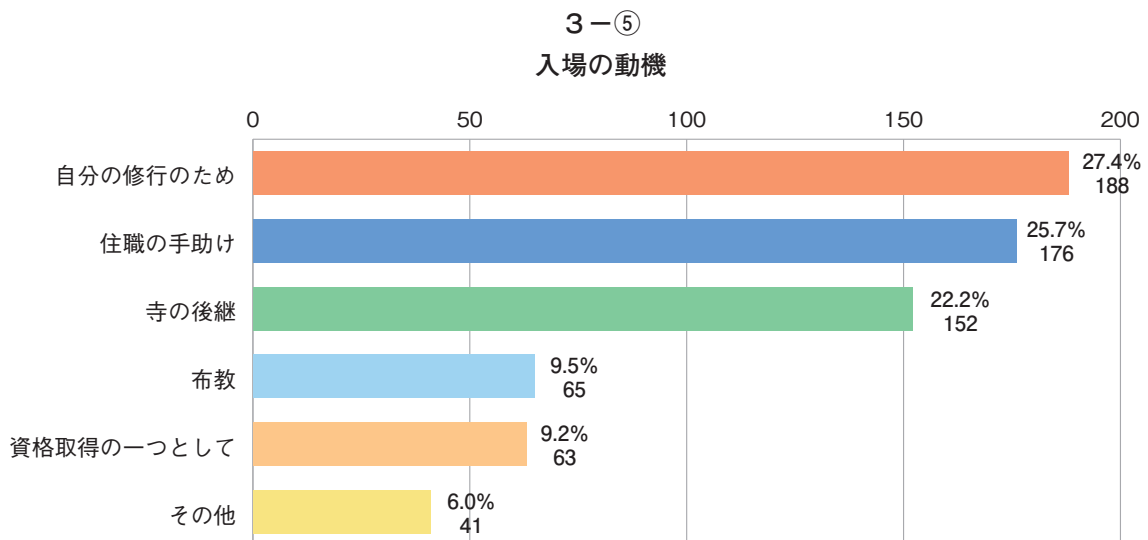
③ 入場時の状況



④ 信行道場の種類 (入場時の名称)



⑤ 信行道場に入場の動機 (複数回答可)

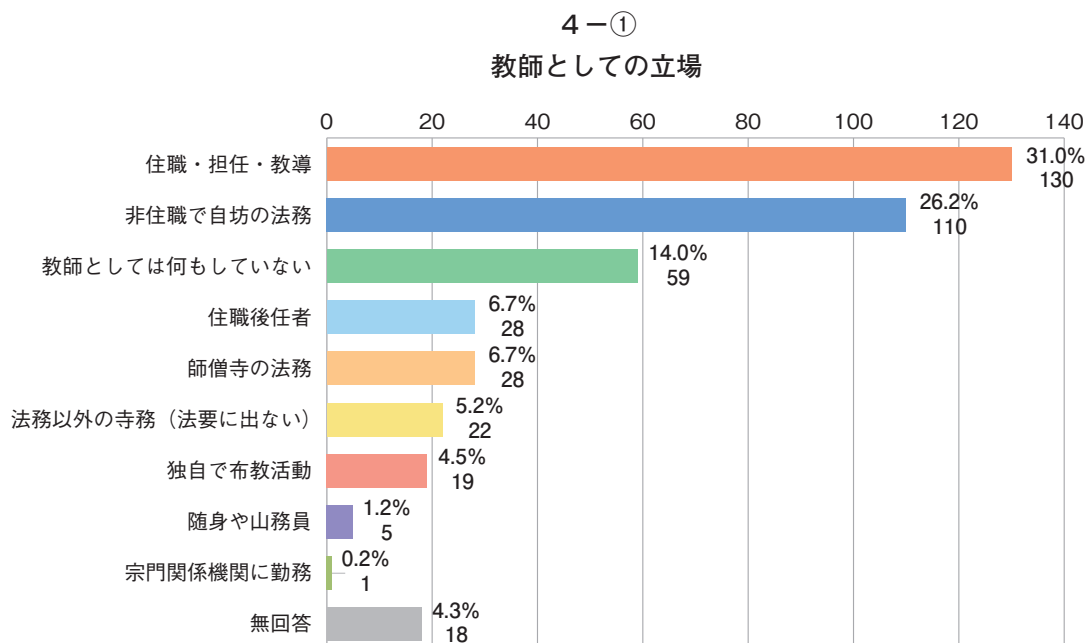


住職の手助け (22.1%→25.7%)、寺の後継 (21.8%→22.2%)、布教 (15.8%→9.5%)、自分の修行 (24.9%→27.4%)、資格取得 (5.4%→9.2%)、と前回調査と比べて著しい変化があるようには見えない。「布教」という理由が減少した分、「資格取得」が増加したという点くらいである。また「住職の手助け」とは具体的には「(住職としての) 父・夫・息子の手助けのため」であり、「資格取得の一つとして」を選択した人の中にも、「その他」にかかわる自由回答から推測すると単なる資格取得を目的とするのではなく「息子が住職となるまで」「道場を維持していくため」「先代住職の遷化」などそれぞれの切実な事情を垣間見る事ができる。この「その他」に関する自由回答をさらに見てみると、「仏祖に対する報恩」「夫婦で結社より立ちあげる為」「夫とほぼ同じ時期に出家し布教を志し寺院建立」「女性の僧侶として苦しんでいる人を救うことができたらと願ったことから」「女性視点での貢献の為」「過疎地域は継ぐ方がいないので決意」「お寺の良さを知ってもらいたく、仏教の教えを伝えたかったから」「法華経の教えに感激して」「ただただ仏様の教えを知りたくて」「先祖への感謝」など、様々な入場理由を窺うことができる。

これらの単純集計の結果を元にいくつかの項目をクロス集計してみたところ、「寺の後継」は50代以下に偏っているなど、入場時年齢別に出家の動機が異なる傾向が認められた。詳細は47頁参照。

4 教師としての立場についてお尋ねします。

① 現在の教師としての立場は何ですか。

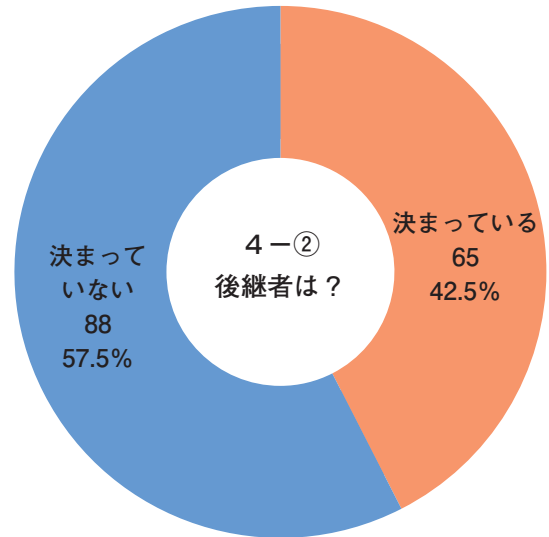


前回の調査から微増したのは「住職・担任・教導」(30.1%→31.0%)、「住職後任者」(4.7%→6.7%)、「非住職で自坊の法務」(24.2%→26.2%)、変化が見られるのは「師僧寺の法務」(13.2%→6.7%)、「独自で布教活動」(8.6%→4.5%)、「何もしていない」(8.6%→14.0%)となる。な

お、前回調査の選択肢にはない「法務以外の事務（法要に出ない）」という質問に対しては、結果は5.2%であった。

**② 質問①で「住職・担任・教導」と答えた方
→後継者はいますか？**

平成16年度、平成24年度、令和2年度の宗勢調査「住職後継者の有無に関する質問」について、後継者が「いる」(60.1%→58.1%→54.8%)、「いない」(35.5%→35.6%→43.3%)という結果が出ており、後継者がいない・決まっていない寺院が前回調査より増加している。今回のアンケート調査では、女性教師が住職寺院において、後継者が「決まっている」よりも「決まっていない」寺院の方が多いという、宗勢調査の結果と比べても厳しい結果が得られた。



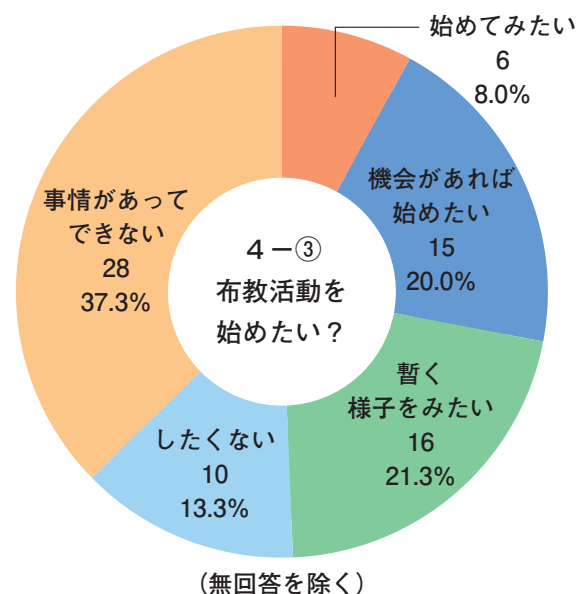
質問②で「決まっていない」と答えた方→今後どうする予定ですか。

「予定はない」「現在（干与人・本山・法縁などと）相談中」「干与人に一任」「寺院を継いでくれる教師を探したい」「弟子を取りたい」「女性教師を育てたい」「子どもに継がせたいが僧侶になる気持ちがない、寺院の規模が小さく収入面で不安」「自分の代で閉じる」「なるようになる」「仏縁におまかせする」などの回答があった。

③ 質問①で「教師としては何もしていない」と答えた方

→布教活動を始めたいと思っていますか？（無回答を除く）

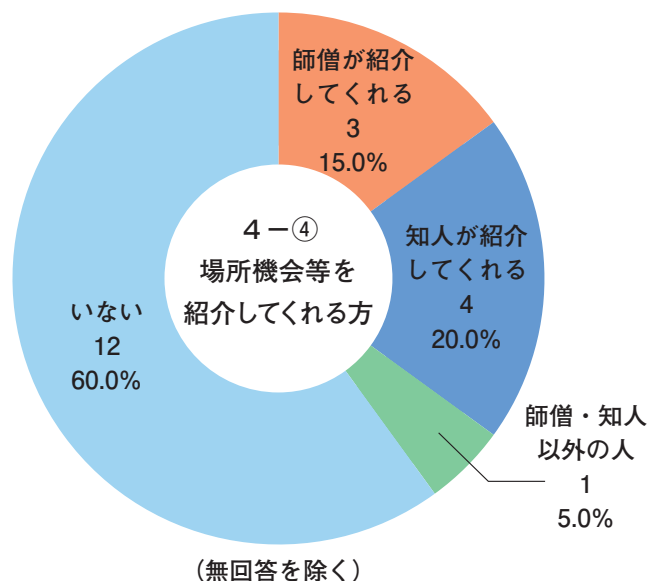
前回アンケートとの比較を見ると「始めてみたい」(5名→6名)、「機会があれば始めたい」(10名→15名)、「暫く様子をみたい」(14名→16名)、「したくない」(6名→10名)であるが、前回の設問にない選択肢として「事情があってできない」という回答が28あったということが特筆される。この回答に「暫く様子をみたい」「したくない」を含めると54になり、過半数が新たな布教活動に何らかの不都合を感じていることが見て取れる。「したくない」「事情があってできない」と答えた方々の個別の回答は下部を参照。なお複数回答があったため、



①の「教師としては何もしていない」の数とは異なる。

④ 質問③で「始めてみたい」「機会があれば始めたい」と答えた方→布教活動を始めるとあって、場所・機会等を紹介してくれる方はいますか。(無回答を除く)

また「新たに布教活動を始めたい」「機会があれば始めたい」方々であっても「場所機会等を紹介してくれる方」が「いない」が半数以上占めている厳しい現状がある。このことが、③の設問で、この理由から「暫く様子を見たい」ということも関連しているのであろうか。



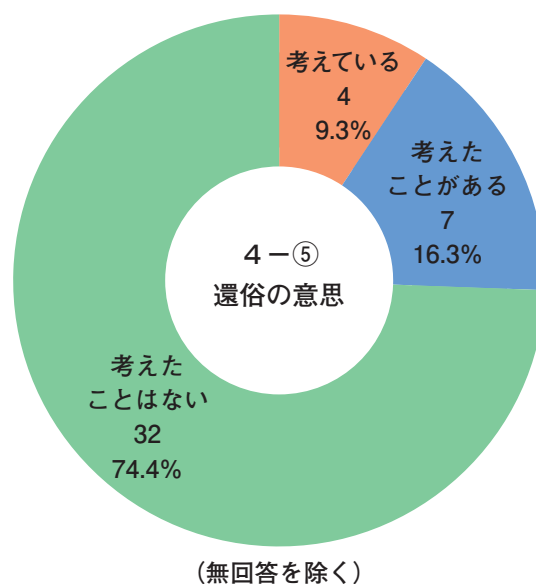
質問③で「したくない」「事情があってできない」と答えた方

→理由をお教え下さい。

「息子が副住職となったから（布教は任せてある）」「寺にいてだけで役に立っている筈」「自坊では檀家様への布教はしているつもり」という答えがある一方、「高齢」「病気」「体調不良」また「親の介護」「家事・主婦業に専念しているため」等の回答が圧倒的多数であり、特に「高齢」かつ「体調不良」であることを理由として挙げる方が多かった。「家事・主婦業に専念しているため」に布教活動ができないというのは、女性教師が抱える非常に大きな問題の一つである。

⑤ 質問③で「したくない」「事情があってできない」と答えた方→現在、還俗したいと考えていますか。(無回答を除く)

布教を行うか否か、可能か不可能か、僧侶として切実な課題であるが、そのことと還俗の意思の有無とは、意外にも直接的な因果関係は有していないかもしれない。しかしながら、むしろ、「考えている」（4名）、「考えたことがある」（7名）の方を重く受け止めるべきである。



→質問⑤で「考えている」「考えたことがある」と答えた方→理由をお教え下さい。

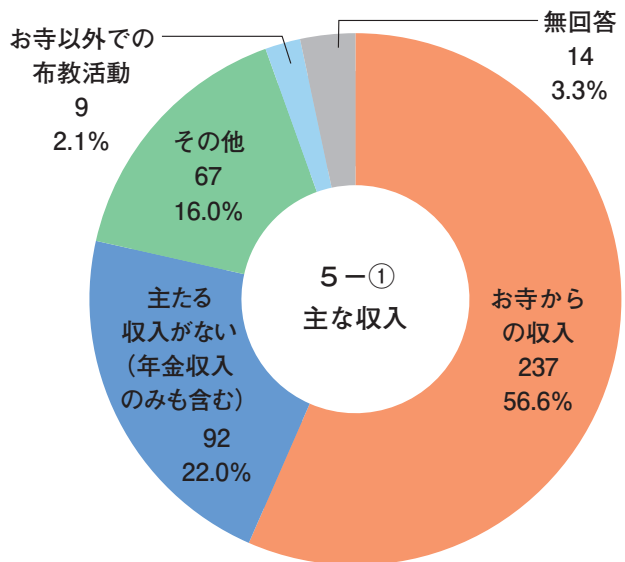
- 上人とか法尼と呼ばれることに抵抗がある。現在、清掃、お茶出しのみが仕事である。
- 世の中についてゆけない 経済的（コロナ！）な事も付け加わった。
- 健康になれば • 高齢の為 • 力不足 • 体調悪い為
- 活動ができないのに宗費を払いつづけることを悩むため。
- 何もしないので意味がない。僧侶の本性を見て、やる気もなくなる。
- 息子はいるがサラリーマンで、私一人では、今さら無理に思う。

5 環境についてお尋ねします。

① 現在生計を立てている主な収入は何ですか。

主な収入として「お寺からの収入」と回答した割合は、56.6%であり、反対に、半数近くは寺院収入に頼っていない現状が見られる。

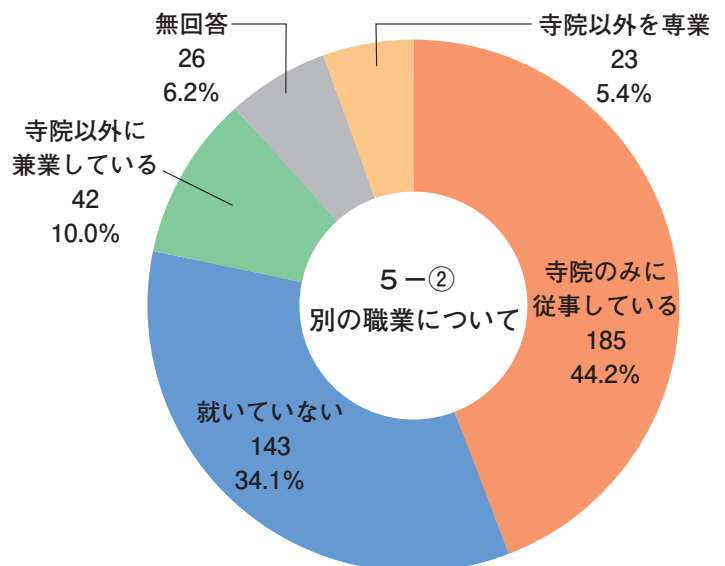
このうち、「主たる収入がない」（22.0%）について、満年齢毎の割合を見ると、20～60歳代までは、それぞれ10%台以下であるのに対し、70歳代では29.5%、80歳代では45.0%、90歳代では68.4%と、年金収入のみも含むこともあり、世代が高まるにつれ、主たる収入がない割合も顕著に増えている。



② 寺院の他に別の職業に就いていますか。

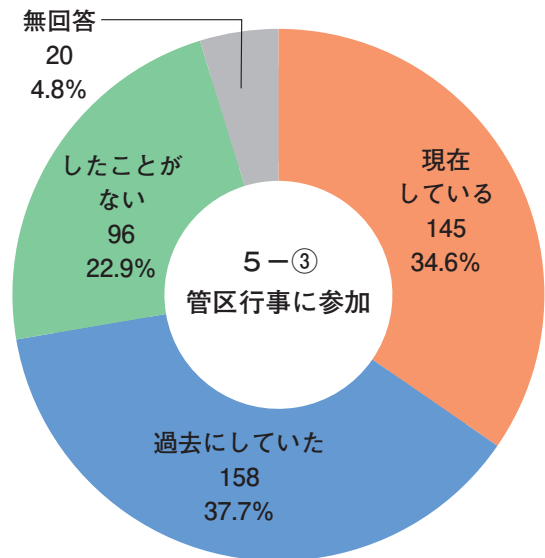
この設問は、寺院で専業であるか兼業しているかを問うための、新設した設問であったが、「寺院のみに従事している」と「就いていない」という2つの選択肢は同義であり、設問の不備でもある。

しかし、「寺院以外に兼業している」は10.0%、「寺院以外を専業」は5.4%と、さほど兼業率は高くない。



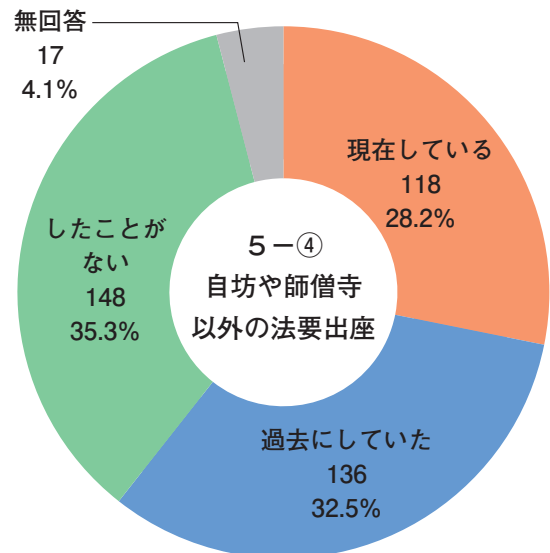
③ 所属している管区の行事に参加していますか。

クロス集計（45・51・54頁）において分析を加えている。



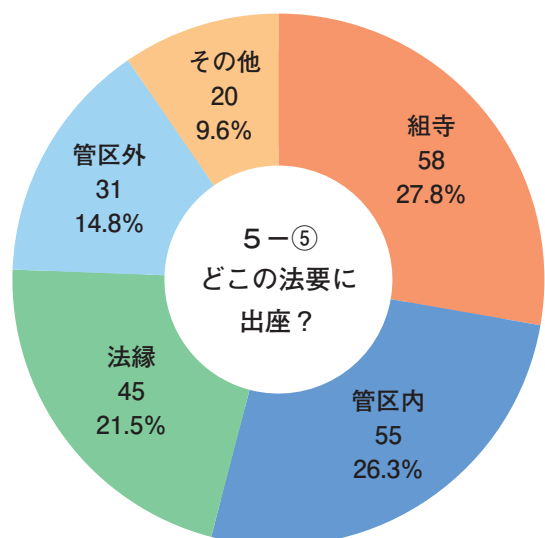
④ 自坊や師僧寺以外の法要に出座していますか。

クロス集計（46・51頁）において分析を加えている。



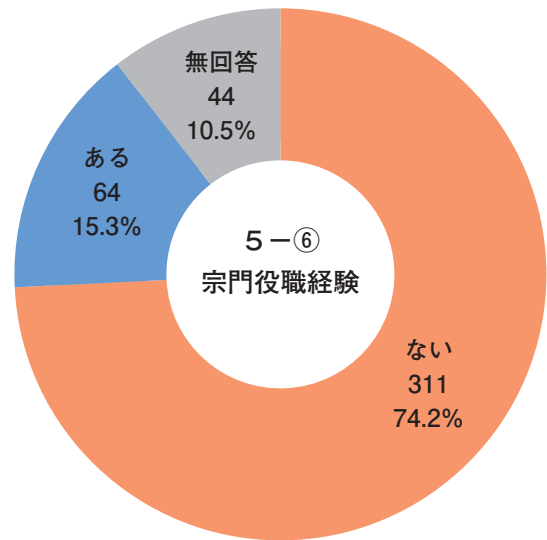
⑤ 質問④で「現在している」と答えた方
→どこの法要に出座しましたか。
(複数回答可)

「組寺」(27.8%)・「管区内」(26.3%)・「法縁」(21.5%)と次坊(所属寺院)において既に関係が構築されているところでの法要出座が大半を占め、それ以外での法要出座は「管区外」(14.8%)・「その他」(9.6%)と、4分の1程度に留まっている。



⑥ 管区内外で宗門の役職に就いたことがありますか。

「ある」と答えた15.3%の中、「宗会議員」「宗務所伝道担当事務長」「宗務所役員」「選挙管理委員」「協議員」「日蓮宗伝道推進委員」「人権推進委員会委員」「伝道部あんのん基金委員」「四会（布教師会・修法師会・社会教化事業協会・声明師会）役員」「教化センター長」「青年会会長」「寺庭婦人会」「信行道場主任・訓育部」「僧道林訓育部」「勸学院」「専任布教師」「国際布教師」「現代宗教研究所研究員・嘱託」などがあつた。その他として「日蓮宗尼僧法団」「全国日蓮宗女性教師の会（役員・事務局）」などが回答として挙がっている（詳細は50・53頁）。



6 研修機関についてお尋ねします。

① 信行道場修了後に研修した機関はありますか。(複数回答可)

6-① 道場修了後研修した機関	
甲種試験	53
声明師養成講習所	46
宗門大学	31
布教研修所	14
布教院	12
霊断	15
宗門の研修	11
石川道場	3
祈祷・修法	3
ビハーラ	3
臨床宗教師・仏教師	2
その他	60

その他の内訳は、
 「管区声明師会主催の法式声明講習会」
 「管区勉強会」
 「日蓮宗尼衆宗学林」
 「本圀寺正嫡祈祷道場」
 「最上稲荷修法道場」
 「求道同願会唱題行研修」
 「立正福祉会 相談員講習」
 「法華和讃」
 等である。

② 今後参加したい講習・研修機関はありますか。(宗門外も可、複数回答可)

左表にあげられていない少数の回答として「尼衆宗学林の聴講生」「hasunoha」「仏教死生観研究会」「求道同願会の唱題行指導者講習会」「女性教師の会での法要講習」「布教、並びに修法祈祷講習」「仏教彫刻」「デジタルツールやインターネットを活用した布教のための講習」「障害者に対して

6-② 今後参加したい講習・研修機関	
布教院	10
声明	9
九星気学・易	7
法華経・御遺文・教学	7
宗門大学	6
祈祷・修法	4
臨床宗教師・グリーフケア	4
霊断	3
布教研修所	3
心理学	3
甲種試験	3

のボランティア研修」「発達障害や適応障害に対しての取り組み」「英語布教の研修」「修法、講座説教、一部経読誦の研修」「ビハーラ活動」「海外の宗教事情（ウィグル・チベットなど）の研修」などがあつた。また「機会があればいつでも」という声がある一方、「留守にできないのでZoom参加や単発のものがあれば受けない」「日帰りで参加できる所があれば行きたい」「女性限定とすれば誤解を生じるかも知れないが、女性教師にとって現実的な役に立つ研修の場に参加、提供出来る様にしたい」といった、家庭では主婦である女性教師が直面する様々な問題点を浮き彫りにした回答もあつた。

③ 信行道場について思うことがありましたらお書き下さい。

【肯定的な意見】

- 修行の場として、一生に一度の機会なので、色々な意味で勉強になり、副主任先生とは数十年來の師。
- 有髪信行道場に入りましたが、副主任先生が素晴らしく、尼僧として男僧とは違う教師としての在り方を教えて頂き安心して修行をして参りました。
- 辛くもかけがえのない貴重な時間でした。特に本山朝勤で内陣に入ることは、女性だと修行中しか経験できないので、続けてほしいです。
- 若い女性主任先生に指導ただけて幸いです…。
- 信行道場は基礎に成る場所なので続けてほしいです。
- 無我夢中の35日間でした。今になってみたら先生方、仲間、携わって下さった方々等、良い思い出となっています。厳しさの中にもホッとする温かいものがありました。なつかしいです。身延のお山で修行出来た

ことは身の引き締まる思いと感謝です。

- 年齢、環境、立場の違いを超えて、ともに修行した経験は得がたいものでした。
- 若い人達との間で色々勉強になった。
- とても貴重な体験が出来、すばらしい友と出会える事ができた。
- たいへん勉強になり良かったです。良き友人もできて、今でも交流があります。
- 大切な法友を得ることが出来、とても素晴らしい35日間でした。
- とても素晴らしい法友や教員に囲まれ充実した修行でした。
- 大変勉強になり、貴重な経験となりました。お世話いただいた方々に心より感謝申し上げます。
- 60才目前で日常（自坊）の用事に追われる事なく『心の夏休み』を頂いた気持ちでした。
- 第二の人生なので今思うと良き先生方に恵まれて、今日までありがたく想います。

- 講話を聞いたりしてよかった。講堂当番、食堂当番など大変であったが良い経験になった。
- ありがとうございます、という一言に尽きる。先生方が道場生が進歩するようにと教えてくれたこと。
- 在家あるいは結婚によって日蓮宗の信仰に初めてふれた者にとっては、できない、知らない事だらけで辛かったが、二度と味わえない珠玉の時間でした。出家を志した者にはあの身延山での修行はとても大切です。
- 素晴らしい師に恵まれお祖師様を身近に感じながら厳しく自分と向き合うことが出来た貴重な時間でした。感謝しかありません。
- とても素晴らしい結界修行だと思う。
- 度胸がついた。
- 此の道は正しいと実感した。
- 勉強になった。入場してよかった。
- なにも出来なかったのに修了をさせて下さって感謝しております。
- 毎日ついていくのに精一杯でした。少し消化する時間がほしかったが、最初ですから、それぐらいの緊張が必要かもしれません。
- 感謝しかありません。ありがとうございます。たとえリモート講義であったとしても、受講させて頂きありがとうございます。

- 法式を沢山学ぶことができて良かったです。
- 自身の発心の拠り所。
- とても良い体験でした。但、日頃法務に携わった事のない立場から、35日で学び取るのは難しかったです。(それもあり、後に声明師養成所へ参加しました)。
- 宗教家としての基礎教育をしていただき、人生後半を有意義に過ごさせていただきました。感謝いたしております。
- 35日間子供を預け修行するのは大変でした。しかし、道場は自分を振り返り、向上させてくれた時でした。新たな出会いに感謝しています。
- 大変勉強になりました。当時の主任先生には今も相談にのっていただき、大変感謝しています。
- 有難い修行をさせて頂きました。苦しい事も乗り越えさせて頂きます。御力を拝受させて頂きました。人生において、大切な時でございました。心から感謝申し上げます。合掌。
- 崇高で素晴らしい信行道場だと思いました。
- 信行道場は男性、女性ともにカリキュラムがあまり変わらないと伺いました。平等な学びの機会と捉えております。

[改善すべき点があるという意見]

期間について35日では不足で、さらに長い期間にするべきという意見・要望はいくつかあった。

- もう少し期間を長くした方がいいと思う。
- 修行期間をせめて50日～100日位に。
- 期間が短い。単位制のようにしたらと思う。
- 声明中心であった。もう少し違うことも学びたかった。

- 読経試験以外にも法要の習熟度を入場前に確認できる制度があれば、より充実した修行期間にできたのではないかと。
- 「信行道場を終えた後のフォローアップの機会が、もっとあれば良いと思います」

- 葬儀の習礼が一度でも良いのであったら良かった（地方で違いがあることとはいえスタンダードな形で）。
- 宗定日蓮宗法要式に従い、式次第並式文、行軌作法、聲明、唱題行等の勉強。できれば修法の勉強も取り入れてほしい
- 法要式ばかりでなく陰陽五行や暦の使い方など学ぶべき。
- ご遺文の講義も入れてほしい。
- 5年に1回、二泊三日の修行してほしい（心のそうじ）（たちどまることも）。
- 習礼等の学びは大切だが、祖山でやるならばもっと宗祖の思いを感じる学びをふやしてほしい。他のところに行くよりも、宗祖が何を思い、何を考え、法華経信仰を深めたのか。そうすれば祖山を大事にするのではと思う。
- 法要、葬儀の実践、法話、回向文等についてもっとお教え頂きたかったなと思います。
- 葬儀について、法話の組み立て方等の実習をもっと行ってほしかったです。地域差はあるにしろ学ぶ機会が出てからはほぼない（自己流の）ものなので、ある程度一人でできると良いと思う。
- 期間が短い。身延ならではのカリキュラムを増やしたらどうか。例えば学長の講義・先輩僧の来講・体験談・布教に対しての座談会。
- 持参する物は具体的でわかりますが、それを入れておく器を迷います。35日間その中味と効率的に過す為に、お手本となる物を教えて頂けたらありがたいです。
- 男女を分けると習うことの偏りが激しいので僧道林のように混合で行うのがいいと思う。

- レベルの差があっても教え合う、その場限りの関係ではなく、一生涯の仲間との出会いという思いを強化できればより良い道場生活になると思う。
- 訓育部の資質、教育を徹底して頂きたい。
- 遊びです（私が感じた事）。
- できるなら剃髪の信行道場に入場してみたかった。
- 信行道場入場者で、すぐに住職になることが決まっている方とそうでない方の熱意（意気込み）の差が大きすぎる
- 信行に全く乖離している。
- 男性の方々に色々お話を聞くと、女性の特別信行道場の方が、厳しく重みがあると感じる。ただ、後々「おがみ屋さん」になり、宗門関係なく活動している方もいて、困る事もある。
- 何とも答えようがありませんが…高齢の方も多く、外国の方も居て、人数も少なく、班の仕事にいっぱいだった。
- 年齢的差別があったと思う。男性の指導は良好。若い年齢に合わせて所作指導等。
- 教学の研修が少ない。
- 入場者の数が減っていて、今後は修行と云う面から考えると工夫が必要ではないか。
- 教師資格と住職資格は分けるべき。
- 検定試験（乙種・甲種）と僧階単位取得者が同じ教師資格（及び住職）を取れることに違和感。せめて前者は住職資格なしの教師資格にする等の区別が必要。
- “尼さん”として育成するメニューはやめて頂きたい。
- 指導する側の資質向上。
- 厳しくすべき。だいぶん、甘くなってきたので。
- 最近の信行道場は厳しさに欠ける様にお聞

きします。本当に布教や人助けをするのであれば、35日ぐらい、給仕一番を徹底されるべき。

- 今までに3人の弟子を送りましたが、残念ながら如説修行の大切さが失われ、年々質が低下していると感じる。
- カリキュラムは統一されていますが、その時の主任先生によってカラーが違う。主任先生・副主任先生は専任の方が良いのでは。
- 地方（管区）によっては道場前の事前研修があるとのことで、そういった試み（師僧以外から学ぶ場）を道場入場予定者に実施してもらえれば。
- 入場者の年齢、能力（学歴：宗門関係学校）に大きなバラつきがあり、事前に僧道林があっても実際道場内で何をするのかわからない。（予習するのに何を、どこまで必要かがわからなかった）
- 最低限必要なものを知っていれば道場中もっと有意義に学べ、身につけていけたと思う。生活や日誌等に手一杯で覚える余裕がなかった。
- 修行と伝統を守る覚悟の為にも剃髪は大事だと思うが、少子化と経済性を考えると、若い寺族が学生の時に気楽に入れるように有髪や、夏休み開催などの年を作るのも大事。
- 有髪にするべき（修行の妨げにならない程度）。
- 読経試験（入行前の）は必要なのか？合格しているにも関わらず信行道場内でお経が読めない人がいるのはどういうことか？と思ってしまった。
- 私が40年近く前に入った頃は、補教信行道場がありました。有髪で入れるという理由で入りましたが、やはり内容が他の信行

道場とは違っていた。そのせいか必要に迫られ少しだけ住職をした時には「補教なのに…」ということも言われたことがある。力が足りないレベルが低いということなのだと思うが、髪があるかないかだけの区別で修行内容まで区別しなくてもよかったのではと思う。

- 個人のプライベートへの配慮を求めたい。信頼関係の心がゆらぎました。
- カレーの時お茶で洗って飲むのが嫌だった。
- 無職でないかぎり、35日間は仕事を休む事が非常に大変。3週間（21日）を2回にするなどの方法も検討すべき。
- その時の主任先生主事先生によって、内容が異なる気がします。宗門として一貫した内容がよいのではないかと。
- 女性が活躍できる場などあると思うなと何度も言われた。現実的だとは思いますが、法華経の精神には反していると思う。正直とても悲しかった。
- 一部の人が優遇されていて不平等感があった。
- 補教信行道場に入行、訓育主任の挨拶で第一声に在家の人は何の為にここに来た？寺族でもないあなたたちは入行する必要ない。ここを出てどうする？と恫喝された。
- リモートでも良いので簡単な説明会を開催すれば事前の準備がもっとやりやすと感じた。
- 法務・法要のこなし方など、実践のみで良い。
- 声明について、どの程度できるようにしておくこと…など具体的に言っておいてほしかったです。入ってから細かな指導があるわけでもない。

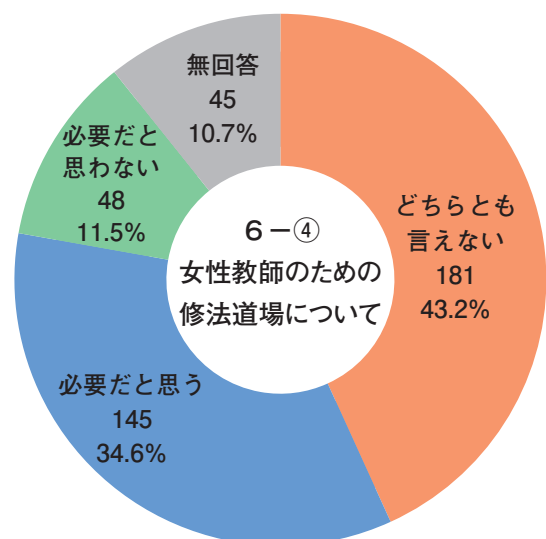
- 60代からの参加では遅すぎたと思う。仕事を休んででももっと早くから考えるべきだった。
- 暑い時期なのでもう少し過ごしやすい時期がよいのでは。
- 入場者の基礎的なレベルに幅がありすぎる。年度によって研修内容が異なるケースがある。
- 35日間という短い期間では物足りなさを感じたが、現実的には、時間や、生活を考慮すると仕方がないと思う。
- 新しくなったと聞いておりますが、積極的に残したい伝統は、大事にしてもらいたいと思います。
- 指導内容は問題なく良かったけれど、指導方法が前近代的で人権の軽視や、理不尽な対応が見られたことが残念であった。

- 入場当時、道場生の年齢に幅があり（20代～70代）先生方も大変だったと思う。
- 監視カメラはやめてほしい。
- 身体機能障害者でもサポートがあれば差別なく受け入れることが出来るのではないか。
- 女性は髪は命です。それを剃るのは苦しいですが、それをしなければ僧侶として失格です。今補教信行道場が無くなって本当に良かったと思います。安易に入れる道場を作るべきではない。
- 寺院のみで生計が立てられない場合、他業種に就職してしまうと、まとまった休みはとりにくくなります。日数や研修方法など、柔軟にさせていただきたいです。分割とか、リモートとか。後継しようという考えも出やすくなるのでは？

④ 女性教師のための修法道場についてどう思いますか。

「必要だと思う」が34.6%にとどまっているが、「必要だと思わない」も11.5%であり、「どちらとも言えない」の43.2%が最多となった。

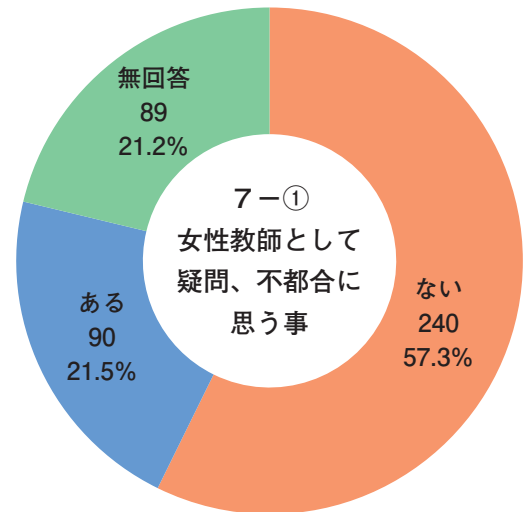
修法道場そのものの需要はあっても、回答者自身が入りたいとの意味ではなかったり、あるいは現行の加行所の形式とはまた異なる形式が求められているなど、安易に結論が出せない事情が推察できるため、更なる調査・分析の必要性を感じる項目である。



7 女性教師としての活動についてお尋ねします。

① 女性教師として疑問に思う事、不都合に思う事がありますか。

クロス集計（44・52・55頁）において分析を加えている。



② 質問①で「ある」と答えた方はどんな事かお書き下さい。

- 管区によって女性教師が葬儀を行う事ができないところもあるようです。これでは、檀家様に顔向けが出来ないと感じます。
- 一切法務に参加していない。
- 世間は認められにくい。形だけの尼僧では話にならない。
- 女性教師は取るに足らないと思われがちだけど、能力の高い方もいるので埋もれさせないで欲しい。
- 女性教師が少ない。意見が違うことが多い。
- 差別。若い方々は男女間の差別が減ってきているが、年齢の古い(?)僧侶はまだ受け止めてくれない。
- 着替え等の問題、配慮。
- 子育て中だと思えるように活動ができないことが多い。
- 祈祷がまったく分からない。
- 宗会議員等、宗門の役職についている人はほぼ男性です。
- 男性社会の中で意見が通りにくい。
- 地方の方では、まだ女性教師に対する差別

化があるようです。

- なかなか日本の社会と同じく風当たりは強いです。
- 書ききれない程有る。信行道場の現状を見るといい。信行増進が図れるか？ 他宗へ転宗もいいかと思う。
- 結婚をすると、それぞれだとは思いますが、どうにも主婦業優先になってしまいます。
- 「女性教師」と言う事が不都合、疑問に思う。
- 男性社会である。
- 有髪、化粧がまかり通っている。
- 僧侶としての自覚が女性教師の中に足りない人がいる事が疑問です。何の為の出家なのか？
- 最近ではテレビ等で女性のお坊さんが活躍されているのでめずらしくないのですが以前はまだ少なかった為、法衣を着ているだけで特別視されていました。
- 一部で女性に対して上からの目線。
- 疑問はないけれど、私自身は恵まれて今日

まで来た中で、他の女性教師を思うと、不満はある。この男性中心の状況は変わらないのではと…。

- 宗門の中の制度を変えないかぎり、何も変えられないのでは…。宗会議員の選挙制度を先ず変えないと女性議員は出られない。私の管内は小さな宗務所でもあるためか、何の偏りもなく平等に動いていますが、世の中の流れ（男女共生）には宗門は大きく遅れている。
- 自身は都市部のため感じたことがないのだと思いますが、地方では女性教師を教師として認めない風潮のある地域があると聞きます。或いは女性を仲間はずれにするような行為があると聞きました。21世紀にもなってもそのような（女性蔑視）考え方の教師が多数いることに対して疑問に思います。
- 後継者がなく、収入がない。
- 管区で活躍されているのはどうしても男性のお上人方で、研鑽の機会も多く、ステップアップのチャンスも多い。
- 女性はどうしても補助的な役割が多い。ご家庭のお仕事と兼業されているのでなかなか横のつながりが無い。軽く見られる傾向があると思います。
- ジェンダーギャップが激しい日本の中で更に遅れている仏教界。その中でも日蓮宗が特に遅れている気がします。
- 横の関係を宗門で強くしてほしい。女性教師としての位置づけ、地位を。
- 男性教師のパワハラにイヤ気がさす。よく知る女性が副住職だったとき、管内の役職をしていたが、とても苦労していた。男性教師が自分たちはうまく立ちまわり、良いところ取りして行き、女性教師にイヤな仕事をまわしている。給料も未払いされたりし

たので、私は管内の仕事はしない。

- 男性教師のパワハラ等。
- 女性蔑視を感じる。
- 上人として認めてもらえないこと。
- 修法が盛んな地域であるため、檀信徒から修法を望む声が多い。これまで師父が修法師である為よかったが、高齢になるにつれ、師父の体力を考慮して、最近は近隣寺院から修法に来ていただく事が多くなった。
- 育児との両立。
- 尼僧が自坊を後継する場合の縁結びのイベントを現行のパターンに加えて宗門主催で企画していただきたい。住職としての媚を求めているわけではなく、しかし寺院法務で出合いの場がない、という尼僧の話をよく耳にします。
- まだ女性の立場が確立されていない様な気がする（全体的に）。
- 僧侶として髪を短く刈っておりますが、子供の学校行事授業参観などでは抵抗があります（ウィッグ等を使用することもあります）。
- 母親としての役割の両立は難しい。
- 宗門も、まだ男性優位だなと思います。「女性なんだから、こうあるべきだ」という男性の女性に対する一方的なイメージが、あることを感じる場合があります。又、女性も（自分自身反省をこめて）、男性の前で一步引くような態度も見られると思います。そのような中、身延山大学において、女性に、僧道生活の道が開かれたことはとても良かったと思います。関係の皆さまには、御苦労が多いかと思いますが、御活躍を期待したいと思います。
- 宗教界は男尊女卑はきついと思います。
- やはり男性社会だと感じる。

- 女性教師が修行できる修法道場がないのが残念に思う。女性教師も現在では修法（木剣を振る事ではなく）の意義や供養・祈願等の深い内容を知る必要があると思う。
- 答えられない。
- 各法要事において学ぶ場をつくらないと布教活動が出来ない教師が多い。法事に自信がなく流れの順を知らない事、又実践場がない教師が多い。
- 女性枠が何事にもある。
- 日本では最初に出家したのは女性であるのに、何故か僧侶は男性のイメージがある。
- 日蓮宗では男性女性の差はないことになったと聞いたが、まったく変わらないこと。
- 尼僧が少ない為、葬儀など弱い立場になる。
- 平等な立場がない。
- 今は自坊にてお経回りやお題目をするだけの活動ですが、もっと回りに女性教師の方々がいらっしゃれば女性だけの法要研修などもできると思います。まだまだ女性の方が様々な機会が少ないと思います。
- 寺庭婦人の研修等、読経に女性教師がいない。全て男僧。
- 「女が意見をのべるのは可愛くない」と発言する男僧。「出しゃばるのはみっともない」など。
- 宗制の「寺庭婦人の規約」には、教師は対象外。区域寺院によっては、寺庭婦人の不足。女性教師になったことで、その地区での寺庭婦人と女性教師との人間関係の亀裂の発生。又、この問題により、所長が女性教師も寺庭婦人会に参加せよ、と言う。宗制の規約を所長の意思で変更できるのか？
- 男性教師の社会になじむことが難しい。ハードルが高い。
- ありすぎて表現できません。
- 修法師について学べないのは少しつらい。周囲は男僧さんが多いし、修法師の方ばかり。仕方ないのかなあとと思っています。
- まだ男性社会的な所がある。荒行に行けない為、祈祷時は他寺院に依頼しなければならない。
- 男女間の差別がかなりあると思う。私の世代かもしれませんが。補教での有髪の話了他宗の尼さん（複数の宗派）「有髪での参加は時代の先を行っている」と褒められたのに逆に廃止になったことが、少し残念かと思っています。
- 男性より下に見られる。
- 自坊以外で出座できることが少ない。
- 組織が男性社会と感じる。
- 女性として自分を活かせる場が少ない。
- 尼僧への差別感。たとえ住職であっても自坊の行事で導師として法要を行う事が無い（地方的なルール）。袴の着用・払子や本装束の所持がはばかれる。尼僧という事で、見知らぬ人から暴言を吐かれた事がある。
- 一所懸命がんばろうという気持ちのみだったので、他に何も考えることはなく無我夢中だった。
- 更年期障害に悩まされ、いつものことも思い通りに行かないことが屢々あります。
- 宗門や教区からの連絡が届かない。勉強会等も参加したいが師僧を通じてしか連絡できないため参加しづらい。
- 「あった」と言う方が良いのかも知りません。やはり70代以上のお上人の中には「女性を組織に入れると甘く見られる」等と思っている方もまだおられます。目に見えない部分で壁を感じることがあります。しかし、自然な形で時代と共に変化していくのではないかと思っています。

- 場所によっては未だに尼僧を下に見るところが有る様です。大きな法要では男性の方ばかりが多く、男女一緒の出座が自然であれ良いのですが、未だに社会とは随分違っている様に思います。身近な差別に当たり前の様に気が付いていないのではと思う時があります。
- 男僧と比較して少し軽く見られている気がする。
- 「女性ならでは」と期待されること。
- 男僧と比べ未だに差別がある事。
- 男性優位の社会。
- 男性上位の体制になっている気がする。法要参加に5ミリの頭髪の指定がある。
- “女性”だからという意味合いではありませんが、(お坊さんの世界が“男性中心の社会”であるなあとと思います) 自分が仏教に興味を持って探求し、その上で仏門帰依を決意した立場からすると、“職業的”にお坊さんをしている方も多く感じます。
- 男社会の体制がなかなか変わらない。尼僧寺院が男僧にとって変わられる現実に対し宗門の助けがない。檀家の葬儀に際し住職の尼僧に導師をさせず、干与人の男僧が引導を渡す地域がある。男女の別なくという法華経の教え、宗祖の教えに反していないか大変疑問に思う。
- 他のお寺様に上がった際の着替えの場所の問題や、修法師様ばかりの法要で読経についていけないことなど。
- 女性教師に対しては剃髪を求める向きがあるのに男性教師に対しては剃髪ではなく短髪でもよしとする風潮があるように思いますがそれが疑問。私の場合、日常生活において剃髪をしていると不都合な場面もあるので剃髪はせず、短髪にしていますが、剃

髪をしていない女性教師の方が不真面目に見られているのではないかと感じることもあります。しかし、剃髪をしている女性教師の中には不都合がある時だけかつらをかぶるという方もいます。むしろその方が不自然なのではないかと常々違和感を感じています。頭髪にこだわらない宗派もある中、頭髪の問題は男女問わずこれからの課題となるかもしれません。葬儀や法要、会議などで暗黙の了解として女性教師は年齢キャリアに関係なく、下座・末席に座るという慣習が存在します。男性教師で年齢やキャリアのある方が下座に座ろうものなら誰かしらもっと上座に座ってくださいと促すのに同じ立場の女性教師に対しては全くそのようなことはありません。女性教師自体も年齢的にもキャリア的にも末席に座るべきではない方が率先して末席に座られることがあります(ご本人はそれが当たり前と思っているのか苦々しく思っているのかわかりませんが)。一般企業では考えられないことですが、女性教師は年齢キャリアに関係なく、女性という塊でとらえられています。そしてそのことに疑問を持っている方がほとんどいないように見受けられます。その光景を見るたびに女性教師の立場の低さに愕然とし、一体いつになったらこの不平等は解消されるのだろうと絶望的な気持ちになります。また男性教師だけでなく寺庭婦人にも女性教師を軽視する傾向があるように思います(それはその寺院の住職の影響なのかどうかはわかりませんが)。このような不平等を解消するためには男女ともに意識改革が必要でしょう。これから教師を目指す女性の方々がこの不平等な世界に飛び込んでしまったことを後悔しない

ような宗門にしていただけたらと切に願います。

- 男性中心の縦社会である事。体力的なことでは仕方がないことであるが100日の荒行には行くことが出来ない。しかし、荒行を出ていないと行える法要などに限りがあること。そのことによる階級のようなものが存在していること。
- 女性教師とは男性教師の間に大きな差をつけている男性教師が多い雰囲気がある。
- 霊園での依頼されたお参りで女性ではなく男性僧侶に来てほしいと言われたこと。
- 自坊を守れず外のお寺の掃除婦になりさがあった事。師僧のお寺の事。
- 仏教では差別がいけないことだと説いているのに一般の社会より僧侶の世界の方が男尊女卑の傾向にあると思う。

- 男性教師中心の中で女性教師の立ち位置がむずかしいこと。
- 女性はすべきでないと言われた事がある。
- 女性教師数が相対的に少ないので仕方がないのですが、更衣室等が男女別に分かれている寺院が今後増えてゆくとありがたいです。お経かばんやお経本、その他教師が日常的に使用する小物類等、選択肢が増えると、選ぶ喜びを得られると思います。
- 女性教師は「女性ならではの視点」「女性らしい〇〇」を求められる。女性が活動に加る際、トイレや更衣室の準備が面倒という意識が有る。
- 法務に呼ばれにくい気がする。式衆に呼ばれにくい気がする。

③ 日蓮宗の女性教師としてこれから活動してみたいことがありましたらお書き下さい。

◎ 「女性」教師という呼称は差別でありセクハラである

- この設問はおそらく母としての経験を生かしてとか女性ならではの視点を生かしてといった形容詞のついた答えを期待しての設問と思われるが、これははっきり言ってセクハラです。男性教師に対して「日蓮宗の男性教師としてこれから活動してみたいことがありますか」と質問しますか？おそらく設問者は差別ではなく区別だとおっしゃるかもしれませんが男性でも女性でも教師であることに変わりはなく、あえて区別する必要はありません。
- もし、一般企業で女子社員にたいして「女子社員としてこの会社でこれから活動してみたいことがありますか」などと質問したらセクハラ事案として大問題となります。

一般社会では常識です。

- 「女性教師」というくくりは多様化社会において適当ではない。
- 日蓮宗の一教師として活動したい。
- 近年、ジェンダーのことが言われていますが、私個人としては、あえて「女性」教師とつけて活動するのかに疑問もあります。わざわざ「女性」とつけなければいけない現状から考えてみたほうがいいと感じます。
- 【*質問文「女性」に//をつけて】(性別に関わらず) 学べることは学んで参りたいです。
- 特に女性教師としてというような意識はなく、一教師として活躍したいと思います。

- 実はこの質問が多いが、女性教師とか男性教師とか、活動内容にしぼりはあるのでしょうか。自分が僧侶として活動してみたいことは、法華経を正しく布教すること以外ありません。
- 「女性教師として」やりたいことはない。自分の研究に引き続き取り組んでいきたい。
- こちらの問いも“女性”だからという意味合いからではありませんが、私は仏教が大

好きで、仏教・法華経に出会えたことを幸せに思い、実際に、支えられ、救われる体験もあり、「仏教的視点から語る、幸せの道とその歩き方」という切口から、仏教～法華経～お題目について、発信できるようになりたいと思っています。

- 毎日が精進修行だから、女性教師に特化せず一僧侶として宗祖に直参して役目を果たしていくことが肝要と思う。

◎女性ならではの

- 管区の行事では凡て参加し女性ならではの気遣いを認めて頂き出来ること凡てをやって来ました。今年で80歳になるので今は副住職に任せているので活動してみたいことはありません。
- 女性ならではの視点・きめ細かさで更にお題目の輪を広げていくことに努力したい。
- 男性中心の宗門の組織の中、女子でも幼少期より教師としての選択肢が持てるように教師の意識改革、女性教師との交わりの場を設けるなど、教師数の減少を女性教師の育成で妨げたい。
- 女性ならではの、子育てや子供に関する活動があればできたらと思っています。
- 女性だけの法要。
- 女性教師がもっと交流が有り、情報の交換が出来たら良いと思うので、1年に一度で

も交流の場がほしい。

- 布教を目指す女性教師の指導。
- 女性目線でできることがあればどんどんしていきたい（そういう視点が必要な場面もあろうと思うので）。
- 女性教師のやさしさ、熱心さなどがあるのでボランティアで、施設など、デイサービスで身近なお話などしてみたいです。尼僧カフェなどしてみたいです。現宗研の仕事をしてみたい勉強したいです。
- 女性だけのお悩み相談とか傾聴活動があったら良い気がします（子育て・夫の事とか）。
- 女性教師の法要出仕率を上げるための研修会開催（すでに自分でやっていますが）。教師と寺庭婦人が仲良く協力できるような一助になりたい。

◎年齢的（体力的）に難しい

- もう少し若ければあると思うのですが、年齢的に無理かなと思います。
- 高齢の為、無理。
- 新しいことは出来そうにないので、今まで通り、檀家さんや地域の方など、関わった

方々の頼りになれる努力を続けたい。正しいお経のあげ方や、信仰に役立つ事を弘めていきたい。

- 自分が外へ出て活動するのが難しくなると、人を迎えて話を聞くだけでもしたい。

- 年を取りましたので考えませんが、私の後を継いで下さる方を見つけたい。
- 体調不良の為何も出来ず申し訳ありません。

ん。

- 積極的でなく申し訳ありません。
- 身体の事があるので活動がむずかしい。

◎現在の布教に満足している

- 現在に満足。
- 信者からも学びながら一日一日修行させてもらっています。
- 信者の方々とときめ細かく接して布教をしていく。
- 高齢ですが独自で布教してお寺を守っています。檀家25家なのでお上人と二人で働いています。
- 来客対応をしながら住職補佐をしている。
- 代務寺のお留守を守らせて頂きたい。
- 一人なので、できるだけ縁ある方々とときめ

細やかなつきあいを大切にしている(手紙、LINE)。

- 女性教師としての活動というよりも住職として地域住民の女性の方々が日頃の悩み事など言っていただける事で何かのお役に立てる事をうれしく思ってます(檀信徒と関係なく)。
- 現在の事をがんばらせて頂きます事が、生きがいでございます。それ以上ございません。すみませんです。

◎やりたいことがある

- 布教活動していきたいです。
- 死刑囚の方と一緒に生きることや、死について、罪について学びたい、共に考えたいと思ったことがありましたが、自分には無理だなあと感じます。
- お給仕をさせて頂ける、お寺(小さくても何でも、どんな所でもと思います)が、何故私には与えて頂けないのかと思います。まだお徳が積めていないのだろうと、自問自答しながら諦めています。お経のあがないお寺はいっぱいあるのに、とも思いません。お経が読みたい!!
- まだ、深く考えることができておりません(“女性”に特化してとなると)。
- 正装して唱題行脚していきたいと思えます。参加、賛同して下さる仲間が増えればベストですが。コロナが落ち着いたなら、子供食堂や、おやつ配布もやりたいと思

っています。

- コロナを機に、施餓鬼会を女性教師のみでおつとめしております。また、コロナ禍が落ちついたら、自坊で介護カフェ、分かち合いの会など、人の話をじっくり聴く、穏やかで温かい集まりを開催したいです。
- 自坊で子供修養道場を夏休み、春休みの期間中に魅力あるものを開いていきたい。子供たちの仏種を育てて、その中でお寺との縁を強めていきたい。
- ローカルで親しみやすい活動をして、地域の人々と共に活動することで、布教の一助としたい。
- 不特定多数の方に食物以外の物品を支援の継続と、アフリカの子どもたちにワクチンを！に参加していきたいと思えます。今後は自死を考えているような子どもたちやひきこもりの子どもたちと話がしたい。

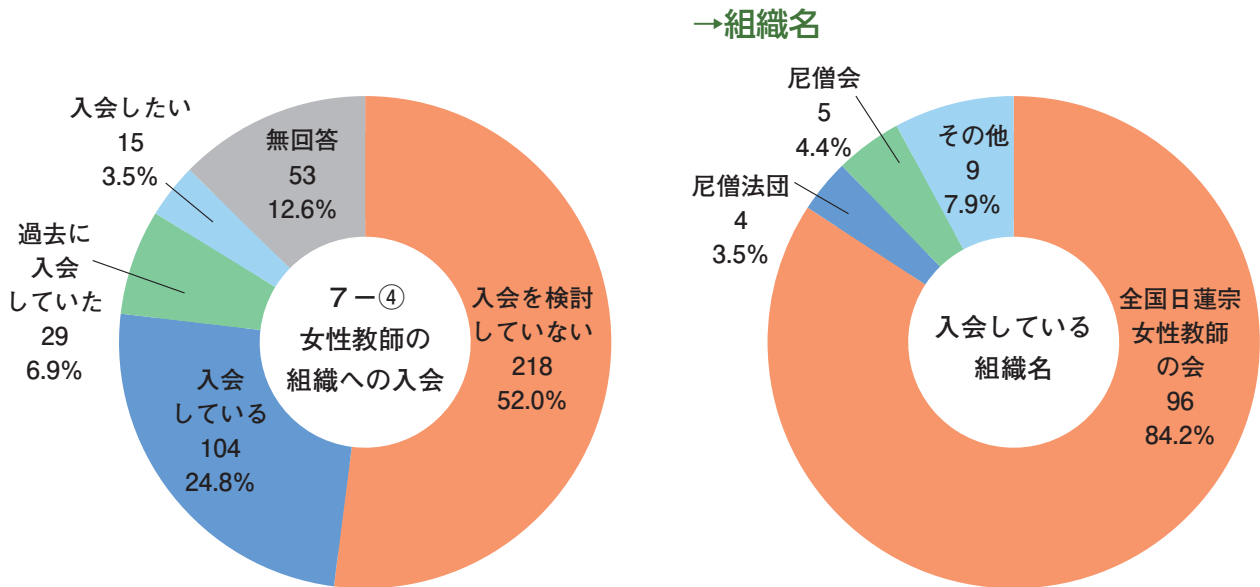
- 福祉活動をしたら良いと思う。
- ビハーラ活動。
- 看取り士。
- グリーフケア。患者さんやご遺族だけでなく、終末医療に関わる方々や葬儀従事者の方々の心の癒し場所にお寺がなれたら良いと思う（茶話会や手芸会、写経、写仏会など）。
- グリーフケア等について、もう少し勉強してみたい。
- 臨床宗教師について学び病院や緩和ケアの現場で傾聴の活動をしてみたいです。
- 障害者に対してのボランティア活動。
- 現在地元で視覚障害者の為の音訳養成講習に通い始めた。
- 3年前から地域のサロンの運営をしているので継続していきたい、子供食堂の様な事も考えています。
- 教師としてだけでなく、子育て、不登校、引きこもり、家庭内の問題について等の相談に関心がある為、少しでも役にたてればと思う。
- 子ども向けの布教を展開する。
- 朗読を生かせる仕事。
- 慈善活動（動物の保護、困っている方の救済など）。
- 相談員の資格を以前頂きましたが、それをもっと活用したいと思うのと、時間的余裕があれば、認知症喫茶店や子供教室などで活動したいと思ったことがあります。
- 宗派を問わず、相談窓口を開き、霊断をし、法楽、祈願、供養、祈祷等ができる活動をしていきたいと思います。
- 一般のレベルがよくわかりませんが。霊断師会で教学と学んだものを伝えていきたいとは思いますが機会が限られています。

- 教師になって30年以上たち、年も老いに入り、社会活動も合わせて充分頑張ってきたと思っていますが、縁あるお寺のお手伝いを担う事となり、最後に報恩の為、殊に女性教師又一般女性の依り所になるようなお寺にしたいと考えています。逆に提案、アドバイス等頂きたいです。
- 人々に依り添って、生きて行きたい。
- 法務ができればいい。
- 地域の人たちとの交流・寺カフェなど。
- 宗務院での講話等は聞きにいらしてます。宗教雑誌などを娘にも見せて勉強しています。
- 公共施設で日蓮宗教師として活動。
- 地域の法縁。
- 法話をしてみたい。
- 団結がむづかしいと思います。人とのふれあい、どういう布教をされているか、話し合いたいです。
- 年齢・性別に関係なく学び合えるサンガがほしい。
- 地域ネットワークを活用して、地域に根差した寺院運営。お寺での七五三詣り等を、気軽にしていただけのように、寺子屋のような活動をしたい。
- 法華経講座。
- お山の錦の森化。杉ばかりで楽しくないし花粉に閉口する。
- 写経会等の指導。
- 他宗教との共同行事。
- 日蓮聖人の女性や子どもに対するご遺文から社会問題の助けとなる答えを見つける講座や勉強会があれば行きたいです。また、法華経以外の經典研究、音楽や絵本を通した活動を行いたい。
- 女性教師の会にて講演などおこなわせて頂

- きたいと考えている。
- 声明師として活動してみたい。

- 茶話会などで、法華経のお話しをしたい。

④ 女性教師の組織に入会していますか、もしくは入会したいですか。



→その他

- 尼衆宗学林同窓会
- 東京北部
- 日蓮宗東京都南部宗務所女性活動部会
- 散華の会
- 福岡寺庭婦人会
- 兵庫県東部
- 本門寺講習会
- 茨城県仏教会シャーラ・サンガ

質問④について、→その理由をお聞かせ下さい

◎入会している

- 全国女性教師の会設立から参加。新鮮な気持ちで志を共にする、教師の方々との交流や活動に興味を持ったので。
- 発足当時、関係者から声をかけられた。
- どのような事をしているか知りたかったから。
- 信行道場で誘われて入会した。
- 信行道場以外で女性教師の知り合いがいなこともあり入会した。
- 遠方での法要・会議等などが多く、自坊（関西）からは、交通のアクセス、旅費等色々無理なので、籍を置いているだけで、活動できていない。
- 女性教師同士の全国的つながりを持つことに興味を持ったので入会した。
- 全く何の組織にも入っていないと、情報がなかなか手に入らない。入っていたら、何かの時に力になってもらえるか、とも思った。でも現実疑問。
- 先輩方の実践や活動を知りたい、助言を受

けたいと思ったので。

- 女性教師の声を（布教方法等）聞きたいと思ったから。
- 女性ならではの檀信徒に寄り添う活動や、女性の法要等が必要と感じたから（質の高い法要が必要になってきている）。
- 女性教師の会の設立に注目していたため。
- 女性教師の会に入会したのは前々会長のすすめ。しかし、この会自体がなくなることを目指している。この会は力のない（と思われる）女性たちが集まって何かやっているのではなく、一人一人が力を持ち、一人でも立ち上がり布教できるように、会員同士が協力できるようにするための組織。絶対数が少なく、様々な会に介護、家事、寺務などで家から出られない女性に少しでも情報が伝われば、遠慮せずに質問ができるようにと活動している。会員でなくとも会の行事に参加される方もいる。
- 私が住職として活動し始めた頃は、力もなく知識もなく技術も伴わず、大変な思いをした。そして回りの男性教師の反応も「なんで住職をするのか？補教なのに…」という感じで孤独感を感じた。女性だけの集ま

りがあって、色々相談できる場所があればいいなと思い、入会した。今は何もしていませんが数は力だと思うので。

- 女性教師同志の連携、情報交換、研修の場の必要性を感じて。
- 女性教師一人ではなかなか行動するのが難しく、情報等も入手しにくい為。会の一員として学びも多い。
- 尼僧の一致団結が必要と感じたため（初代団長の梶山法尼のさそいを受けて創立時より尼僧法団参加）。
- 入会したことで多くの先輩と出会い、法要の練習やつながりが出来ました。男性女性関係なく、広い活動布教が出来れば一番良い事とは思いますが、現実、そうではない事も多いと思いました。
- 色々な女性教師の方々とコミュニケーションをとれる場であり、色々な考え方の方がいらっしゃるので、良いと思っている。在家の尼僧と尼僧の住職さん、寺を継ぐための方と、信仰から尼僧になった方との間には、ギャップがあり差別的なところがある。
- 後継者探しのため。

◎入会したい

- 女性教師の組織に入会していませんが、入会してもなかなか出席できない。時間がとれないのが現状です。
- なかなか女性教師のつながりがなく、孤独に活動していることが多い。
- 先輩方の実践や活動を知りたい、助言を受けたい。
- また、学びの機会も欲しい。
- 周りに頼れるお寺さんがあまりいないため。
- 地方のため、管区内で女性教師の組織があるのかもわからない。（女性教師の人数も数人で高齢の方ばかりである）。
- 同じ女性教師という心強い味方の方々と交流していききたいため。
- 不安事など相談してみたいため。
- 様々な事を共有して頂きたいからです。
- どの様な組織が有るのかを確認してから、検討したいと思います。
- 周囲に女性教師がいないため。

- 近くに尼僧さんがいらっしやらないので、勉強させていただきたい。尼僧としての活動の可能性を見出したい。
- 様々な方と意見を交換し、布教活動に役立つ

てたい為。

- 青年会に所属し、その活動で時間的余裕が今現在は確保できない。

◎過去に入会していた

- 活動したくても（入会時）持ち出しの交通費、他で無収入の身には続けることができなかった。
- 法務・家事、境内そうじ等、忙しかったの

で退会した。

- 信行道場の後の一年に出来た会で、全員入っていたと思うが、それぞれ自坊の仕事がいそがしくなり自然消滅した。

◎入会を検討していない

- 女性だけの組織に入る意味がみえない。
- そもそもの疑問ですがなぜ女性だけの組織が必要なのか？
- 男性女性と別れて活動する必要を感じていない（ついでに「法尼」という呼称も関心しません。男性僧侶も女性僧侶も「上人」とすべきだと思います）。
- 特に“女性”だけである必要をあまり感じないから。
- 必要のあるときは男性教師と共に混ざって活動すればよいことだと思う。女性だけである必要はない。
- 女性教師の会という名前が良くない。逆差別のようで、男性教師との距離を感じる。
- 女性教師を自ら主張してしまっはいつまでも『僧侶』ではなく『女性教師』。
- 今後「女性」という枠組み自体が有効に働かなくなると思うから。
- なんとなく参加しづらい。機会がない。
- 関わりたくない。
- 住職か否かではっきり区別がついている。
- 女性教師の場合、特に複雑な事情の方が多い中、組織となると、偏った考えの方が多い中、組織となると、偏った考えの方が多い中、面倒な付き合いが多くなる。今ある

教師の組織に女性教師が出席しやすいようにするのが良いと思う。

- 男性・女性の区別なく、共に力を合わせ活動できることが良いと思う。
- 組織に組み込まれるのは好まない。自坊の仕事をして、自分なりに学習や修行をして行きたい。組織には必ずパワハラが発生するので入らない。
- 女性教師のみの活動が宗門に大きく影響を及ぼす気がしないため。
- 女性だけで固まると派閥等男性社会と同じ問題がおきるから。
- 組織についてよく分かっていない為。
- 管区で昔から女性教師が尼僧会を組織し、檀信徒との交流を計りながら布教を続けてきたから（必要ない）。
- 男性女性かかわらず、地元の人ともかかわっていききたいので。
- 横のつながりができ、成果もあると思うが、女性教師の立場は様々で、布教への考えや実践も多様で一つの組織にするのは難しいと思うから。
- おそらく組織を立ち上げた方々やそこに所属している方々にとってはマイノリティー

である女性教師の活躍の場がないのでそれを作ろうということと思いますが、男女共生ということであれば女性だけの組織が存在すること自体が男女共生の妨げになるのではないかと思います。男性側からしたら女性には女性組織という活躍の場があるのだからそこで活躍すればいいという口実を与えてしまうことになるのではないかと危惧します（実際にそのようなことを口にしていた男性教師を知っています）。

- 多様性の時代、女性というくくりの組織は必要なのでしょうか。性別の区別なしに宗門の問題として取り組むべきではないでしょうか。
- 本来女性だけの組織ではなく、どこにでも

(宗門の)女性教師が自然に居る男女区別のない組織になって頂きたい。

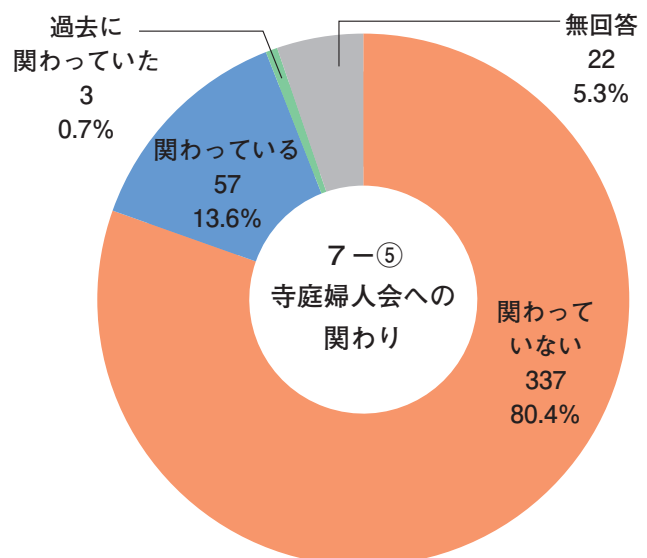
- 聞くところによると大寺の教師が多いようです。
- 現在は時間的に難しい。
- 寺族の力には在家は勝てません。
- 入会後に活動に参加することができるのか不安です。
- 付き合いが複雑。
- 身近に親しくしている女性教師がいないから。
- 近い将来、片田舎に引っ越しをします。師僧の元でお給仕に励みたいと考えておりません。

◎入会できない

なお「入会できない」とする回答の中で、その理由として挙げられているのは、「高齢のため」という年齢的な問題が多く、「病気療養のため」「自坊の法務が忙しく時間的余裕がない」「入会しても活動する時間がない」「住職の後継として学ぶことに専念したい」「育児や家事に忙しい」「活動している場所が自坊より遠方にあることが多いため」という意見も寄せられた。また「現在迄の一時期に社会福祉活動の方にも参加していた時があり、女性教師であるがゆえに地域住民の女性の方々と交流出来たと思います。現在も檀信徒に関わらず地域の方々との交流を行っております。自坊の御信者の御方で手一杯でございますが、私のようなものでも、がんばらせて頂けます幸せをありがたく感じております」という意見があり、これは地域と密接に関わり活動できている例である。

⑤ 寺庭婦人会に関わっていますか。

これは新たな設問である。宗制上、教師と寺族・寺庭婦人とは区別されているが、実態として、教師でありながら寺庭婦人としての役割を担う女性がどの程度存在するのかを調査する目的である。結果は13.6が「関わっている」との回答であり、自由記述には、寺庭婦人会の会合への参加だけでなく、会員として所属しているとの回答も見られた。



⑥ 質問⑤で「関わっている」と答えた方→どういった形で関わっていますか？

- 会合や行事に参加している。
- 夫の寺での、寺庭婦人会に所属している。
- 寺庭婦人会からは、住職になった時に脱会したが、管区内の寺庭婦人とはとても良い関係を保っている。食事会等、集まりの時は呼んで頂いている。
- 組寺院のみの会に出席している。
- 管区内の寺庭婦人会のみ参加している。
- 寺庭婦人会に所属しているだけ。
- 教師ではあるが寺庭婦人の立場で参加。
- 教師で、寺庭婦人として、分け隔てなく、仲間に入れてもらっている。
- 教師であるが会員になっている。(管区の会則を変更し、入会出来るようにした)。
- 元は寺庭婦人会会員で、その後教師となったが、そのまま在籍。寺庭婦人会の長老もパワハラするので、本当は脱会したい。
- 本来、教師は入会できない規定があるが、地域寺庭婦人会の皆様のご厚意で仲間に入れていただいている。
- 組寺内の寺庭婦人会のみ。おつきあいで。県内の寺庭婦人会からは、僧侶である以上、寺庭婦人ではないと。最もだと思う。
- 役職を受け15年以上関わっていた。和讃活動も続けていたが2年前より引退。
- 元々、寺庭婦人（住職の娘）でした。教師となりましたが、檀信徒にとって“菩提寺

の娘さん”に変わりなく、今は現住職婦人の助けとして関わっています。

- これから入会するのでわからないが、母が寺庭婦人会に関わり、話をよく聞きます。
- 和讃を自坊で教えているので寺庭婦人会の和讃にも参加し勉強している。また役職にもついています。
- 法要を行った後、世間話で仏様の話をする(やさしいたとえ話等)。
- 募金を街頭で行ったり、社会福祉に関するボランティア。
- 和讃参加、寺庭婦人会での研修参加、管区内バザー手伝い、寺庭婦人会の行事に参加。
- 寺庭婦人として、教師として、長年頑張っ
てまいりました。ですが寺庭婦人に関する宗制(本宗の寺院、教会、結社に住職、担任、教導・同居する親族で、本宗の教義を信奉する者を寺族とする。但し、教師又は教師補はこれを除く)の文章を理由に、教師は寺庭婦人会の役職に就くことができないと指摘され、愕然としました。女性が教師になると女でなくなるのでしょうか。私の長年の苦しみ・経験、頑張りを全て崩されたやりきれない思いをどこに伝えたいか、思っていたところです。
(プライバシーに配慮し、内容を端的に編集してあります)

⑥ 質問⑤で「関わっていない」と答えた方

- いつの世にもどの世界にも女性ならではの云える役割があると思います。今は関わっていませんが、過去には関わって参りました。寺庭婦人と教師とは女性であっても差

があると思い、今は関わっていません。

- 当管区に寺庭婦人会が存在しない。
- 以前は管内の寺庭婦人会に入っていた。
- 昔は寺庭婦人会が無かった。尼僧さんが多

- く、有髪は入れなかった。
- 寺庭婦人会に関っていたが会が消滅した。
- 寺庭婦人会が運営されていない。
- 以前は写経会講師として関わっていました。

- 嫁が関っている。
- (主人) 住職の一存で何でもきめて、学問のない私は無視です。
- 女性の方が寿命が長くなって元気な方が多い。宗門でも活躍してほしい。

⑦ その他、ご要望等ありましたらお書き下さい。

- 今の時代、女性だけにアンケートをとること自体がセクハラに該当します。回答率が悪いのはセクハラと解釈され回答を拒否されているからなのではないでしょうか。女性でも男性でもそれぞれに抱えている問題はあります。また、このアンケートは平成14年に行ったアンケートの再調査とのことですが、何のために調査をするのかということが明確にされていません。回答者が知りたいのは、現状を把握してどうしたいのかです。統計情報として集計・分析することですが、それだけのために宗門のお金を使ってアンケートをとるのですか？本来大事なのは調査結果を踏まえてどうするかです。一般企業の場合、アンケートの目的を明確に示しそれによってどのような利益・改善が行われるのかが必ず問われます。アンケートという手法は設問者の設問の仕方や集計の仕方によって設問者の意図どおりの結果に歪曲することも可能なツールです。世の中には怪しげなアンケートも存在し、悪用されることもあります。そのことを承知している方々にとってはこのようなアンケートに答えること自体、自分の意図しないことに使われるのではないかと不安を感じることでしょう。
- 父の後を継ぎ40歳で尼僧になりました。はじめは苦労しましたが、自分の身の丈に

あった布教をして参りました。何よりも祈ることが出来るそれが一番大事だと思います。より添って共に祈ることこそ尼僧の役割だと思います。

- 長い間文化センターという場所で写経をさせて頂いておりましたが、皆さんが仏教をわかりやすく法華経を、そして日蓮聖人を訊けた事で他宗の方が身延山や七面山と心を法華経に関心をむけて下さる経験をいたしました。女性が信行道場に入場時は30才～40才という時期になる方が多く感じておりますが、それが苦しむ女性が多い、布教に大いに役立っていかせていけないか感じております。
- 世の中の現状、何の役にもたたない。何も望む事もなければ。
- 女性教師は中央の研修会に出てこれない事情がある方が多いですが、近年Zoomを使った研修会は自宅・自坊にしながら参加でき、とてもありがたいと思います。
- わたくしにとって僧侶であることは生計をたてるための『職業』ではありません。5の①や②の間には違和感を覚えます。
- 男僧寺と尼僧寺とは檀家数も異なります(少い)。良く理解頂きたいと思います。
- まだまだ男性中心である僧侶の世界では女性はどこまでいっても隅に置かれる。僧侶として受け入れられるのは私(?)が死ん

でからですか？若い方頑張るとはいえない。広き門が願い。

- 私は遺族年金が有りましたので生活できますが…。生きていけません。やはりお寺や教会を持ちたいと思いますが、歳を重ねて諦めました。仏教界には今話題の最低賃金は無関係？特に女性教師は？
- 成果は無くても身近な方から喜ばれる事ぐらいしかできないので、勧誘すると人は敬遠するし、お金が無い話ばかりなので今の時代は難しいから現状維持が最優先だと思います。
- 女性教師のための修法道場があれば入行する教師も多いかと思います（入行したいと言っている女性教師は結構います）。
- 尼僧に対する宗門の考え方が分からぬ。育て方が違う。
- 宗門では印刷物が沢山出されるのですが、例えば宗報、名簿etc、いっぱい、たまってきます。寺の中に山積みですが、いつか処分しなければならない時が来ます。その時、古紙の回収に出してもいいのでしょうか。燃えるゴミとして出すのでしょうか。個人情報とか、宗門の内部の話とかいろいろあると思います。例えば宗門で回収してくれるとか、何か方法を教えていただきたいと思います。
- 男性教師・女性教師・寺庭婦人 立場は違ってもお寺を守る役目は同じなので、境の無い宗門になって欲しいと思います。
- 女性教師としての連絡一切ナシですから一般レベルがわかりません。日蓮宗からの連絡も総会の案内のみ。その分、霊断師会で勉強させてもらいました。
- 労力が要りますし、ご負担だとは思いますが、定期的にこういった調査があるといい

と思います。

- 教師の方でLGBTに分類される方の調査もあればいいなと思います。
- 後継者を作りたいが、収入がない。
- 女性教師は、男性教師よりいろいろな経験（子育て、介護など）を経てから教師になれる方が多いので、そのキャリアを生かせる方法があると良いのに、それが良さ、深みだと思います。
- 宗務所長の決定方法に疑問もありますが宗務所を通さず直接宗務院に話せる窓口をつくってほしいです。
- このようなアンケートに意味があると思えない。宗務費用がもっと有効につかわれることを願う。
- 要望ではありませんが、女性教師としてでもなく、理解に苦しむ事があります。それは布教が禁じられている「臨床宗教師」になる方がいることです。病床や精神的不安定等の方たちに寄り添い、ケアすることは僧侶として大事なことだとは思いますが、布教をしないということは、随他意の行であり、私共の常日頃の行はすでに臨床の中で行われており、法華経の一行者としての矜持を大事にしたいと思っている者にとっては、とても複雑な気持ちです。
- 宗祖大聖人が大切に思われている「依法不依人」、ご祈祷の時の咒陀羅、特に鬼子母神咒、尊神様のお覚りが唱えられていないどころか別の咒文になっているのは尊神様のお覚りに対して失礼ではないでしょうか。又日蓮大聖人もお経文を別の文にする事に対してはきびしかったと思います（経文通り）。鬼子母神様のご守護できないのでは？
- 女性学生が男性学生と同じように、学校を休むことなく、夏休みなどに信行道場へ行

- けるようにしてほしい。今のままでは、1年間休学しないと6月の道場に入れない。
- 社会人になってからでは、結婚、出産など、女性が僧籍を取得するチャンスはない。学生のうちにとっても、剃髪、休学などハードルが高すぎて、厳しい。
 - 住職にならない女性教師もいると思うのでその人たちはどうやっていくといいか、気になる時があります。その教師たちの意見の場があると良いと思う。
 - 教師（特に男性教師）に娘がいる場合、すすんで得度、度牒を授けるか（授けないか）、又その理由を聞いてみたい。
 - 教師として、僧侶として、あるべき姿を示したいと思っています。将来、女性教師と呼ばれなくてもいいようになるといいのかなと思います。
 - コロナ禍で、地方寺院は大変になっています。地方も大切にしてほしいです。
 - うわべだけでなく、本当に力のある女性教師を中央に登用していただきたいです。
 - 今の時代、女性だから男性だからと考えるのが難しい。これからの寺院のあり方を考えるほうが大切だと思う。
 - 女性教師の質の向上を考えてくださるならば、宗門からの規程で指示がないと、結局は信行道場だけ出て終わりです。地域によっては、住職になっても男性教師より下座で座るところもあるそうです。そうになると「どうせ・・・」と女性教師も考え、進化のない状況になります。どうぞ様々な方針を考えていただけたらと思います。
 - 法華経とは永遠に変わる事のない真実、真理、道理であると説かれ成道を得る為の教えが妙法蓮華経なら教えの如くに学び行う事こそが求めるべき道であろうと存じま

- す。日蓮聖人は比叡山を濁れる山として下りられたのに今の日蓮宗は濁れる宗門であり先師先哲並びに莫大な檀信徒の諸霊位が同じく法華経不信の為に苦しんでいる。
- 一番の原因は木剣であることに気付いてほしいと願っています。
 - 寺族寺庭婦人規程の改正は行われたのですか？所長は「宗制の規約を自由に変更しても良い」権利を持っているのですか？
 - 宗門は女性教師と寺庭婦人をどのようにとらえているのですか？
 - コロナ禍によって様々な行事ができなくなって、かえって本来のお寺としての活動が落ち着いてとりくむことができた様な気がします。相談事の方々にもゆっくり時間をとる事ができ、笑顔で帰すことができるのもうれしいです。原点にもどって一步一步な、田舎の田舎の人の為の寺です。
 - 時期が来たらお坊さんの道をしっかりと歩きたいと思います。私は在家ですし、お金のことは誰にも迷惑かけず、働いていきたいと思っています。老いた両親のことや生活があるので、働いて預金をして、来たるべき時がきたら、しっかりと法華経の勉強をしたいと思っています。
 - 信行道場後20年以上になります。世情の変化により法要の機会が少なくなり、基本的な事も忘れていきます。僧風林の様な講習会に参加したい。
 - 諫暁八幡抄の実践としてルンビニゾーンのラーマグラマー釈尊廟に日蓮大聖人の伝法大曼荼羅と誕生佛の一如宝塔を建立いたしました。スリランカ、タイ他佛教国の多くの人々が参拝してくれているのに日蓮宗はルンビニに行ってもラーマグラマーは素通りしてポカラへ観光に行ってしまうとの事

を聞き悲しく思いました。せっかく生誕の地に行ったらラーマグラマーの聖廟にも参拝してほしく思います。

- 今回のアンケートには直接関係が無いかもしれませんが、葬儀等を紹介された場合、女性の僧侶はことごとく断られる。理由は女だからです。宗教界の女性偏見は根深いものがあります。女性もそれなりに知識をつけ、自分自身に厳しくなればと思ったります。
- 信行道場の教師達の選別はどのように決められるのでしょうか。忖度で決めているのではないかと思う節があります。僧侶として立派にされている方にしてほしいです。
- 私が入場していた時にもパワハラもあり、毎日これが僧侶？何が僧侶？という思いがありました。
- 研修等中央だけでなく地方にも来て欲しい。
- オリンピックの森会長発言に似た女性軽視的な社会通念が宗門全体にも根強くあります（女性はお茶くみ、お酌係のような）。今やジェンダーの問題も表面化し、性別や年齢に関係なく、人々（宗門全体、僧侶、寺族、檀信徒、全ての人）が自由に幸せに過ごせることが仏教の本来の役割ではないでしょうか。このような場を頂き感謝いたします。
- 門戸を広くした宗門であってほしい。
- 日蓮宗の悪イメージのユーチューブが多くの人に視聴されているのを見るにつけ、自分自身が襟を正そうと思うばかりです。
- 全く代務寺の仕事をやらない代務住職がいる。総代・公的機関に提出する印を押すだけ。宗門（宗務院）は査察すべきである。
- 住んでいるところが地方なので、宗報で研

修会などがあっても、ほとんど池上や東京の方で、たびたび行くことが出来ません。全国、地方の教師も行きやすい様に地方に来て研修会を開いていただけませんか。

- 寺庭婦人会も女性教師の会も、住職やご主人の反対により参加できない方がいるので、宗門として参加を促していただきたい。
- 私は、現代の日本に生まれ合わせ、仏教～法華経～（日蓮上人）～お題目に出会えたことをとても幸せと思っています。しかしながら、この事を（身近なお坊さんの世界の中で）分かち合うのは難しく、自分が浮いているように感じ、残念でもあり、落胆する気持ちも感じます。宗務院の宗勢調査にも記しましたが、こうしたことの相談やカウンセリングを受けられる仕組みが宗門内に有ったらいいのと思います。
- 法華折伏・破権門理の金言を心にとどめて宗門が一つになり、身延の山が汚されぬようにと願う。そして各々の場所に於いては男女の別なく互いを尊重し合える僧侶団体であってほしい。布教を禁じられた社会事業への参加は日蓮宗僧侶のすることなのかも疑問に思う。
- 女性は出産・育児・家事に時間が必要です。これは大切なことだと思います。葬儀・法事も大切なことですが、生きている人々の教化がとても大事だと思います。そのためには正しい教育が必要だと思います。参加しやすい研修会等をお願い申し上げます。
- アンケート、お心に御掛け下さいまして、心から感謝申し上げます。合掌
- 仏縁に感謝しています。
- 現在 90 才で体調不良の為何も出来ず申訳ありません。
- 女性教師としても良さをいかしていく為の

研鑽が必要なことを痛感しているが、コロナ禍がある中ではリモート講義、講習を利用したいので、その中に寺カフェなどの紹介などもして頂きたい。

- お寺もグリーンケアをしなければいけないと思います。故人に生前一度も会ったこともない場合もあるかもしれませんが、なるべく、生前の様子を理解して遺族に寄り添っていき事が大切だと思います。
- 私のいる地域は過疎化が進み、寺院だけで生活するのは大変です。それにも関わらず、毎年多額のお金を宗門に支払い、特に何の恩恵を受けることもありません。今後、今いる寺や代務寺院等をどうするか子供に継がせるのか、正直悩んでいます。宗門としてそろそろ過疎地域のお寺をどうするか、考えてほしいと思います。補助金を出すとか…僧侶を派遣するとか…寺院後継者の大学学費を補助するとか…何か色々作って送られてきますが、そういったお金があるならば、他にすべきことがあるのではないですか？ はっきり言って、無駄遣いです。
- 宗門関係の行事の際は必ず女性教師が来る事を前提として準備してほしい。
- 女性教師の立場の向上に、他宗派よりも先駆けて、新しい何かを発信してほしい。
- 女性の方が寿命が長くなって元気な方が多い。宗門でも活躍してほしい。
- 各種研修の際、食事の際等の時に“白衣のみ”で活動する事が多々ありますが、生理の期間が重なった時に、血が白衣に滲んでやしないかドキドキする場面があります。女性のための研修、作務衣、または袴や道服を着用できる時はまだ安心できますが、男性の皆さんにも、血が滲んでいた時にはきっと気を使わせてしまうなぁ…と思いなが

ら、生理用品とにらめっこしています。